

分で、教師経験もない者としては)、こちらが前向きであれば、生徒たちはそれに応えてくれる。

パナマ 6/1

よほどスペイン語に堪能な人でない限り、問題の解き方や、理論を説明するような授業は難しいと思うので、最初は、教材を作ったり、ゲーム感覚で楽しめる教材を紹介したりして、専門用語に慣れていけばと思う。また、1クラス30名弱であるが、3クラス、80名近くを相手に講義をする場合もあるので、そういう場に慣れているほうが望ましい。経験はあった方がいいかもしれないが、どちらでもいいと思う。ただ社会経験はあった方がよい。

タンザニア 3/2

タンザニア人社会に溶け込める適応力

人種差別的偏見やエイズ等に対する偏見をもつことなく平等の立場で彼らとつき合えなければいけない。さもないと、日本人一人だけのここでの生活は大変苦しいものになる。

ザンビア 4/1

英語力があることに越したことはない。

そしてマラリアなどに打ち勝てるすばらしい体力の持ち主であって欲しい。

ガーナ 4/2

なにはともかく、健康第一で活動してほしい。小生は、これまでに4回も熱を出して寝込み、赴任が遅れたり仕事を休まなければならない羽目になった。特にマラリヤになると2週間から4週間は仕事を休まなければならない、活動に大きな支障がでる。健康を守るためには活動を制限して、休養を充分とることも必要である。そのほか健康には留意しすぎる事はないと思う。

活動についてであるが、まずは授業をしっかりこなす事が大切である。そのためには英語力が充分備わっている必要がある。

タンザニア 6/2

タンザニアの生徒は論理的に思考する訓練を受けていないせいか、理数系の科目、特に数学を苦手としている。しかし、先生が絶対のこの国では先生が「Do you understand?」ときけば「Yes!」という返事しか返ってこない。生徒が実際に理解しているが、まるでそう答えるのを訓練されたかのように一律にそういう答えが返ってくる。したがって「Yes!」の返事が返ってきたからといって、ちゃんと授業についてきていると考えると大間違いである。

タンザニア 5/2

ある学校の校長と話をすることがあり、その時彼は下記のような陳述をしたので紹介する。

「ピースコーやVSOからは英語を学びたい。日本人があまり英語が得意でないことは知っている。その事はあまり期待していないが、日本人の仕事に対する態度とか計画性だとかを学びたい。」
だそうだが、そのような見方をする校長は少なくないようだ。

ザンビア 6/2

教師隊員としては英語の問題が一番重要だと思うが、自分の経験から言えば、慣れれば英語が下手でも何かはできるようになると思う。(もちろん、下手なら下手なほど、苦勞するとは思いますが)それよりも協力隊として積極的な姿勢を常に持ち、明るく生徒とやっつけられる人望を持った人に来てもらいたい。環境はザンビアの内では、整っている任地なので、だれでも生活していけると思う。以上が、自分の能力はさしおいて、後任の方に希望したいことである。

ザンビア 7/2

まずカリキュラムの内容を十分理解する必要がある。シラバスをよく読み、過去の卒業試験問題にも目を通しておく。同僚教師と話し合いいろいろ意見を交換するのも重要であろう。どのような内容をどこまで理解させればいいのかをよく理解し授業準備をする際の指針とする。そして生徒がどれほど内容を理解しているかテストによって探る。特に数学や物理では多くの問題をさせて慣らせることが不可欠であろう。

初めあまりにもやり方が違って理解されずかっときてしまったりふさぎ込んでしまうことが多いがそこであきらめたりせず続けることが大切だと思う。

タンザニア 7/3

A-level では生徒は英語ができるので理解も早いですが、授業に対する彼らの姿勢は日本とは比べものにならないぐらい真面目である。授業中も質問が多い。その真摯な態度に答えるためにも、予習には多くの時間を割いて欲しい。

あと、本校のように電気、水道なしのところにおいては、任地のいい所だけ見つめ、任地を気に入るよう自ら洗脳することが大事である。他の任地と比べてはいけない。こんな貴重な体験はできないと割り切る心構えが必要。

マラウイ 7/1

私たちはボランティアであり、学校から雇われているわけではな。その有利な立場を利用して、もっといろいろ大胆な活動をやってみてもいいのではないだろうか。後任隊員は新規の隊員に比べ、前任者がつけた轍をたどっていけば比較的スムーズに活動が始められるという反面、常に前任者と比較されるという宿命を背負っている。何かにつけて私と比べられるというのは彼にとって迷惑な話だと思うが、人の記憶というのは次第に薄れていくもの、彼が「私の後任者」としてではなく「この学校2代目の日本人ボランティア」として独立して見られる日が来るだろうから、とにかく、この田舎での生活を楽しみながら、彼にはのびのびと活動していてもらいたい。そして最終的に私のように、「この学校で活動できて本当によかった」と感じてもらいたい。

ガーナ 4/1

この位置づけは教師であるが、勉強だけでなく日本の文化（日本語、歌、歴史など）を少しずつ生徒達に教えていくのがよいと思う。前任者も私もかなり熱心にやっていたことなので、取りくみやすいと思う。続けてほしい。

タンザニア 5/1

交替要員に希望することは

①私の場合、言葉の面で苦勞が多いので語学力（英語）が第1に必要なと思う。交替の方には、低学年ではなく、Form 3、4を教えてもらうよう、学校側と話つもりでいる。やはり授業はきちんと英語のみで行う方が生徒にもボランティア教師にとってもよいと思われる。スワヒリ語はこちらで生活する中で生活に困らない程度までならば話せるようになるので、とにかく英語力のある人が望まれる。

②その他に、何か1つ特技があると、学校内外でとても役に立つ。スポーツ分野でも芸術分野でも何でもよい。とにかく生徒と一緒にできることがあると、生徒に喜ばれるし、またこちらでも楽しめる。ちなみに、本校は敷地がとても狭いので生徒達はネットボール、卓球ぐらいしかやっていない。また、女生徒なので歌をうたうこと、踊ることが好きである。

タンザニア 7/3

初めは後任を呼ばないつもりでいた。しかし校長や他の先生達の話聞き説得されて気が変わった。うちの学校は私で5代目であり、隊員を送り続けて10年以上になる。みなすっかり日本人になっている。学校の運営はそこそこうまくいっており、特に大きな問題はない。理科の先生の不足も思ったほどではない。これ以上いる必要はないと考えた。しかし是非また隊員を送ってくれという彼らの熱心な要求を聞いていると単にお金やドネーションを期待しているのではなく日本人の存在自体を望んでいることがわかった。理由はどうかこれだけ日本人の存在を望んでもらえるというのはひとえに前任者の方々の努力のたまものであり、協力隊活動の成果がここに大きく現れていると思う。毎日下手な英語で授業をするだけでなく、探せばやること、できることはまだまだある、そう思い後任を呼ぶことにした。

元気に仲良くやってくれればそれでいい。

エチオピア 6/2

自分は新規の隊員である。ジンカに隊員が派遣されるのも初めてである。さらに、エチオピアには教師隊員は自分1人である。すべてが初めてということなので2年間では、これからのジンカ及び教師隊員のための地盤づくりに多くの時間を費やすことになると思われる。加えて現在のエチオピアの教育事情、特にジンカの教育事情を考慮すれば成果が出始めるのは、まだ先のことになると思われる。そのため後任の隊員は必要であり且つ継続的に隊員を派遣していく必要があると考える。

継続性をもたせるためには、後任の隊員と任地で直接会い、引き継ぎをするのが望ましいと考えられるので任期の延長も必要となる可能性がある。

現在のエチオピアの教育事情を考慮すれば、2年間で成果を上げるというのは困難であると考えられる。ゆえに自分が任地にいる間にというのではなく、これから先のことを十分に考えた上で活動に励んでもらいたい。また後任を必ず申請することを望む。

8任期（協力隊活動）を終えて思う

ザンビア 5/1

2年5ヶ月はまったくあつという間だった。毎日が充実してたとは言いがたいが、実に貴重な日々だった。この青年期にせまい日本を離れ、ほとんどの点で日本とは異なるザンビアという見知らぬ地で協力活動ができた事を私は誇りに思う。ザンビア人に何かをした、とは思わない。まして私がザンビアの発展に貢献できたとも思わない。けれども自信を持ってこの事は言える。自分の視野が日本を離れる前の何倍にも広がったということ。本当のアフリカ・ザンビアを知り、本当の日本を知った。砂漠だけが、飢餓だけがアフリカじゃない、もっと人間くさくもっと泥くさく、日本人と同じようにいい人も悪い人もいる。彼らは喜び、泣き、時には絶望し、また笑う、どのテレビがこんなアフリカの姿をお茶の間に見せてくれただろうか。

日本に帰ったらまず普段着のアフリカを伝えたいと思う。

タンザニア 5/1

今すでに任地から引き上げて思うことは「あつという間だ」ということ。ふと、普段の休暇と変わらず、また何日か経ったら任地に戻るのではないか。戻りたいとさえ思う。

私が任地で、学校で「協力した、教えた」と胸を張って言えるようなことは何一つないような気がする。しかし、なんと多くのことを「学んだ」ことだろう!! タンザニア人の生活を見ていると、

本当に人間らしいし、“生きるために”という言葉がよく当てはまる。生活の知恵、人間関係、子供の教育、習慣 ect. 最初はとまどい、正直言って嫌悪さえ感じることもあったが、慣れるにつれ自分の身についていつの間にか彼らのやり方を真似している自分に気づき、おかしく嬉しくもあった。

ソロモン諸島 5/1

特別な活動をしたわけではなく、日々の授業を確実にこなした2年間であった。実験器具については日本の文化無償援助でかなりのものがそろっており、それらの管理、薬品、実験器具の購入が主な仕事であった。

自分としては、理科教員として、ソロモン諸島の理科教育の発展に少しでも協力できたことに満足している。

PNG 4/1

正直、この報告書を書くことが苦痛である。2年間をふり返ると「なぜ、もっと……」という思いに悩まされるからだ。そして、今、必死切り直前の徹夜である。(学生時代のままである)

必要とされる人間でありたいと思う。もしくは自分を必要としてくれる場にいたいと思う。しかし、そういうふうには充分になれなかった自分に苦い思いである。だが、一方で思う。「協力活動」とはいえ、所詮、不完全な人間どうしの葛藤の一場である。自分にとっても自分とかかわってきた多くの人々にとっても、人生の次の展開につながるかを、そこから得たいものである。自分としては貴重な体験であり、今に生かせると思う。この2年間にかかわってきた多くの人々に感謝している。

ガーナ 5/1

任期が終り近くなるにつれて、赴任当初のことを良く思い出した。残りの日々の絶望的な長さを思い、何故自分はこんな所に来てしまったのだろうと落ち込んでいた頃を、一日一杯のパケツの水をくんでもらう心苦しき、夜も絶えず汗が流れる程の暑さ、わがままで、皆が嫌な思いをしているのにその存在がなければ学校運営のなりたたない校長。こんなことでノイローゼ気味になりながら毎日、時間がすぎることに絶えていたことがあった。

そんな私がいつから任地の生活を愛するようになったのかはっきりとした転換期を覚えてはいない。しかし、今では田舎の平和な生活をいろんな人や物事に感謝しながら送れているということは本当に幸せである。

一番うまくコミュニケーションがとれたのはおばさん、おばあさんたちである。英語がまったく話せない人も多かったが、彼女たちにはとてもかわいがってもらえた。任地を離れる日、おばあさんの一人が言った言葉が、私がいかにこの町で平和に楽しめたかを物語るだろう。「ホワイト・マンの人でこんなに仲良くしてくれたのはあんたが初めてだよ。」

タンザニア 5/2

活動目標を掲げて授業に臨んだが、一年目は英語で授業を行うだけで精一杯。二年目になってようやく余裕を持つことができ、楽しんで授業ができた。しかし私ができることの50%にも満たない二年間の活動であったように思う。「できない、できない」と生徒をばやく前に、空き時間等を利用して丁寧な解説ができたはずである。放課後に補修もできたはずである。

ガーナ 5/3

最後に私はこの2年間については6割方満足している。一つは、よきパートナーが何人かできた

ということ。ある old student などは最後の2ヶ月私の助手のようになって働いてくれた。こういう人達が将来一年発起してガーナを発展させてくれること私は期待している。二つ目は、私の作った実験道具のいくつかを他の学校の先生が見学に来たこと。そうやってなあんだ簡単にできるじゃないかと自分に目覚め、どんどん皆が工夫してくれるようになると私は嬉しい。

ガーナ 5/1

任期を終えようとしている今思うことは、協力隊に参加して良かったということである。できることなら一年任期を延長したいくらいだ。日本国外へ一歩も出たことのなかった私にとって、ガーナでの2年間の生活は新鮮な驚きの連続であり貴重な体験になった。

ガーナ人を見ていて感じたことは、貧しさを感じさせない明るさと親切なことである。ガーナ人はよく私にこう言った。「日本は金持ちでガーナは貧乏だ」確かに彼らの生活を見てみると決して富裕とは言えないものである。しかし、貧しさからくる卑屈さや暗さはあまり感じられない。彼らは明るい。そしてよく挨拶をする。人と人とのつながりをとても大切にする。時としてそれがうっとうしく感じ、少しほっといてくれと思うこともあったが、多くの場合はガーナ人の優しさ、親切さとして受け取れた。ガーナ人を評するならば friendly という単語がぴったりだと思う。

ザンビア 5/2

任期終了にあたって

自分が自分に言い聞かせてきたことは“ベストをつくしているか”“トライしているか”ということだった。他人の評価ではなく自分の評価である。日本の中に居た時のあの気持ち、目標が失われているか、達成出来ているのかということである。それに対して、今はなんともわからない。日本に帰り協力隊を振り返って次のステップを踏み出したときになにかわかるのかなあなどと思っている。

パラグアイ 5/1

この2年間に2つの問題をかかえた。

第1の問題点は私自身の思い込みであった。理科教育で教えるべきことは全世界共通だと思っていたが、日本では手段であることがここでは目的となっているようなところがあり、大いにとまどった。とまどった後、自分の意見を同僚の教師に伝えようにも語学力の不足に手も足も出せず立ち往生した。これが第2の問題点——言葉。この2つが本質的な問題点であったと思う。すべての問題点は主にこの2つから派生していると思っている。

ジャマイカ 5/1

「協力」ということばの目的語は私の場合、学校や他の理科教師たちということになるのだろう。一教員として授業を担当したのであるから学校に協力したということはいえるかもしれないが、他の理科教員たちの教科教授に協力したかといえば、これはほとんどしていないといわざるを得ない。

理科教員たちも生徒とまったく同様、器具の扱いになれておらず、ときには目をおおいたくなることもある。赴任当初は実験手法や器具の使用法について他の教員たちを助けることができればと思っていたが、果たせなかった。教員はこの国でもさしたる根拠のないプライドをもっており、他の教員からの口出しを快く思わない。それ以上に私のほうも生徒の授業を見るのに手いっぱいであった。

ソロモン諸島 4/3

生徒の科学的思考力を伸ばしたり、科学的知識を身につけさせるというのが理科教育の目的で、

対象があくまで生徒であるので、協力効果を評価するのは難しいし、それは長い時間がかかって現れてくるものと思う。しかしながら自分が赴任する以前は理科教員がひとりもおらず、授業もまったく行われていなかったことを考えると、ここに赴任してきて授業を担当しただけでも、学校にとって生徒にとって意義ある「技術協力」だったように思う。

それだけでなく、2年間の活動を通して生徒の変わっていく様子を見てみると、自分の教えたことが確実に生徒の能力になっていることを、日本にいた時より強く感じる時がある。まじめで一生涯懸命な彼らはスポンジが水を吸うようにたくさんの知識・能力を身につけてくれたことと自負している。

タンザニア 5/3

ここタンザニアでの2年間、自分はここに生活をしに来た。こちらの人々の生活にまぜてもらおうと思った。そして、この異文化のなかで、人としての共通点をみつけることができればと思った。赴任して、言語、文化等の違いから、最初、人間関係で疲れることが多かった。しかし、今、ここまで来れたのは人間関係のおかげであると思う。近所の人々、職場の人々、そして生徒たちによって、特に生徒たちは、ここで生きる活力を自分に与えてくれた。彼女らは、まさしく自分を一喜一憂させてくれた。授業は彼女らとの楽しいタタカイであった。ここを離れると共に、自分の教師という仕事も終了する。人間同志のコミュニケーションを基本とするこの仕事はとてもやりがいがあった。ここタンザニアに自分の生徒たちがいる。いつか、ここに来て生徒たちに再会したものである。みな良いママになっていることであろう。

ガーナ 5/2

今後は、青年海外協力隊における活動を思い出とせず、経験となるよう努める。

職種として、理数科教師を選択することによって、生徒の気持ちを汲み取れるようになり、後進の指導時にたいへん有効ではないかと考える。

海外で暮らすことによって国際的視野を養えた。マクロな視点で電力業界を見れるよう努力する。

日常英会話能力はかなり上達したが、更にビジネス英語を会得し、これらを用いることができるよう努力する。今後は更に仏語も会得したい。

趣味として、写真を撮ってきたので、活動記録のひとつとしてできればうまくまとめた。

ガーナ 6/2

顔の見える活動を心掛けた。日本人の感覚としては当然と思われることであるが、私は時間割どりに授業を行なった。学校内で授業を行なっているのは私の教室だけというのは日常茶飯時であった。他のクラスの生徒が私の授業に参加するということは普通のことであった。生徒は「時間割どりに授業をする教師」として受けとめていたであろう。

ガーナ 5/1

協力は自分個人のしたい事を自分一人でやったのでは意味がない。自分の場合、校長や教師との連携で活動を進めなければいけなかった。自分の担当だけはちゃんとこなしたつもりで満足していたが、自分に積極性があればそれ以上に学校に貢献することができたのではないかと反省する。自分も職員として学校にいたが、やはり特別なお客のような待遇を受けていたので、自分は本当の彼らの一員にはなれなかったのかもしれない。

ザンビア 7/2

ザンビア人以外の他国のボランティアとの交流もおもしろかった。彼らとボランティアなった理

由や、活動内容を飲みながら話しをするのもおもしろかった。わたしたちは任地では日本人は一人であり、自分の活動や自分自身を客観的に判断する材料を持たない。ピースコーは私が特に親しくした仲間であるが、彼らの地域の人々に対する配慮や気配りまたブッシュの中でたくましく生活していく体力・適応力には感嘆した。私は彼らの任地について自分の生活上の問題について愚痴を言うことを辞めた。そして同僚教師への無礼な態度を改めた。彼らとの交流がなければ私の活動はもっとつまらないものになっていただろう。かれらに私たち日本人が与えた影響も少なからずあったはずである。私たちは地域の人々と交流することを目的として派遣されている。これは私たちに日本人だけで小さな社会を作る事無く視野を広げなさいということであると私は考える。

フィリピン 7/2

赴任した当時は社会に出た経験がなく、協力隊活動を“仕事をほどほどにしながらの2年間の休暇”と考えていたふしがあった。しかし、赴任後すぐに先輩隊員によりどれだけ忙しい仕事が残っているか（新卒の尺度で）を知ったのであった。それから2年間というものの JICA パッケージ・プロジェクトや巡回指導などに一生懸命であり自分の生活を振り返る時間がなかった。任期を6カ月から、さらに3カ月と延長した所で自分の生活も豊かにすべきであると気づき、フィリピン語の歌や料理、手芸などを習った。フィリピンをさらに理解できたような気がして非常に有意義であった。

私はこの任期中の技術協力の内容より、協力隊の経験から自分が学んだ事のほうが、はるかに大きかったような気がする（もちろん私の CP にも多くのことを学んだと感じてほしいが）。例えば、英語の能力の向上や日本のアジア、特にフィリピンにおける立場、さらに自分が日本のさらにはアジアの一員であったという自覚を持つことができた。今後この貴重な経験を日本国内や海外にてどのように生かし、還元していくのが現在の私の課題である。

ザンビア 7/2

非常に楽しかった、の一言に尽きる。大きな怪我も病気もなく、泥棒にも入られず、ザンビア人は優しいし、私の同僚達の多くは仕事をまじめにやっていた。頭にくることもそんなに多くなかったが、もっともこれは、隊員になる前のアフリカ・ヵ月旅行の経験によるところが大きい。なにはともあれ、任国を愛する心を持てたことは、とてもよかったと思っている。この2年間は、私の宝である。

大きな金を使う大きな仕事はできなかったが、私の授業を通じて、生徒達が大きく成長してくれるといいと思っている。大きく成長した生徒達が、私の言葉の一つでも覚えていてくれたら、教師としてこんなに嬉しいことはない。教師っていい職業だなあと、こちらに来て初めて思った。

異文化の中で暮らすことへの興味が、より高まった気がする。インドや中南米、中近東などへの興味が募る。しかしとりあえず、アフリカは良い所だとの認識をあらたにした。何が良いのか、と具体的に聞かれるとよくわからないのだが、もう一度でも二度でも帰ってきたいと思っている。

ザンビア 7/2

外国で暮らすと日本がよく見えてくるというのが本当であった。日本の常識は日本だけで通用するものである。それを違う国の人に当てはめたり、その基準で相手を判断するのは間違っている。しかし日本の基準で相手に怒ったり、その違いに悩んでいる隊員をよく見かたけ。私自身もそうである。いつのまにか日本で慣れ親しんだやり方を相手に押しつけようとし、それが受け入れられないと腹を立てた。私達はここに米をあげているのではなく、住まわせてもらっているのである。鯨を

食う人間は野蛮だといわれると不愉快なように、相手も自分のやり方を非難されると頭に来るだろう。ここは自分の国、文化とは違うところであるということをよく肝に銘じ、そのうえで変えた方がいいと思われるところを相手に伝えるべきだと思う。日本のことは忘れ柔軟になることが大切であろう。

ザンビア 5/1

長かった2年間であったが、十分な活動をするには時間が足らなかったのも事実である。当初、信じていた人間が金銭的な問題になると信じられない人間に変化したり、生徒達から裏切られたり(日本でも良くある事だが)、ザンビア人に対して人間不信に陥った事もあったが、だんだん慣れるにつれて、どの様に生活すれば良いかが判って来た。良い、友人も出来たし、信頼を寄せてくれる生徒達も多かった。

生活は厳しかったが、それ故に他の隊員が決して経験出来ないような、ブッシュ生活ならではの体験が出来た事も確かである。ここでの体験は、日本で職場に戻ってからの教育に非常に役立つ物であると信じている。

ジンバブエ 5/1

最後に、人の大切さを学んだ。「人」いう字は人と人が支えあってウンヌンという話は知っていたが、その意味を実感できたと思う。まず悩み事がある時、人と話をすると楽になる。こんなことさえ私は二年前、頭でわかっているも実感としてなかった。そして異なる視点は新鮮であり、人と意見を交わしているうちに自分が浮きでてくる。そして人を大切にすると、自分も大切にされる。人を大切にしないと、自分も大切にされない。この人々は本当にフレンドリーで、楽しい2年間でした。

ガーナ 5/1

ボランティアとしての協力活動には若干不満が残った。自分をこの国の発展や人々の生活の向上に捧げ尽くすことができず今でも不完全燃焼である。きっとこの思いはいつまでもくすぶり続け、私の心の中でいつの日か爆発するのは確実である。いつの日になるか分からないが、私は将来一度は難民キャンプで働きたいと思っている。もう一度今度は別の形でボランティアをしたい。

ここで生活して思ったことはやはり人間同士の関係というものが生きていく上で最も大事なことである。第一印象や外見だけで判断し、例えば「ガーナ人だからルーズだ。」とか「ガーナ人は働かない。」などと偏見を持つことは至極簡単である。確かにガーナ人共通・特有の行動パターンがあり、それに惑わされがちであるが、個人個人を見てみると皆それぞれ違う。いい人もいるし悪い嫌な奴もいる。最終的には個人と個人の関係に集約されると思う。私が任地で楽しんできたのも良い人間関係をもてたからだ。

フィリピン 6/1

巡回指導セミナーについてはセミナー参加者からの評判は非常に良く、1日だけのセミナーを次回は2〜3日間に延ばしてほしいという声を何回か耳にした。夏期セミナーの受講者からは機会があれば他のトピックについても教えてほしいという意見があった。またパソコン教室に関しては配属先のスタッフは、もし何も教えてくれなかったらパソコンは今のよう十分に活用されずに宝の持ち腐れになっていただろうと言っていた。ハイスクールの理科教師と理科教育設備に関するアンケート調査については、この国の経済企画庁にあたる NEDA の PNVSCA (ボランティアのコーディネートをこなしている機関) の所長はこの国の理科教育の基礎資料として役立つものだと

誉め、PNVSCAでも理科教育関係のボランティアの要請の際の資料として使いたいと言っていた。

ともあれ総合的に考えると2年間の隊員活動の成果はあったと信じている。赴任当時に比べて現在は配属先には活気があり、地方理科教育センターの企画するセミナーやプロジェクトが明らかに増えてきている。巡回指導セミナーのあと、満足そうな顔をして席を立つ参加者を大勢見かけた。今すぐには目に見えるような効果は表われないかもしれないが、きっと何らかの形でこの国の理科教育の向上に貢献していると思う。

マラウイ 7/2

私がこの国のためにどれだけのことをしてきたのか、それがどれだけの協力効果をもつのか、任期終了を目前にして今でさえ全く見当がつかずにいる。新規の隊員であったにもかかわらず、後任要請をしなかったため、私が、コタコタセカンタリースクールにとって最初で最後の日本人ボランティアとなる。活動の成果は隊員一代くらいの短い期間であられるものでないことは、私にもわかっている。しかし、同僚のマラウイアンスタッフの仕事に対する不熱心な態度は私には、どうしても我慢がならなかった。それで、後任要請を断った。職員の人事異動がはげしいこの学校のこと、おそらく近い将来、私という日本人ボランティアがいたことは殆どの職員に忘れられてしまうと思うが、私の日本での生徒たちとコタコタセカンタリーの生徒との間で始まった文通はできるだけ長く続いてほしいと願う。そして、そのことで彼らの人生に何かしら良い影響があればと思う。

ガーナ 7/1

帰国まであと約3週間を残すのみとなりました。延長期間を合わせて2年と5ヶ月、充実した隊員生活が送れました。病気も1度マラリアにかかりましたが、それ以外には大きなけが事故などもなく順調に生活できたと思います。

理数科分科会では力不足ながら平成8年の1年間会長を務めさせていただきました。アコソボ訓練に関しては一時潰れかけたことがありましたが有志の協力を得てなんとか持ち直すことができました。新隊員にとって赴任前の教育実習訓練は大きな効果をもたらすものと信じてます。どの様な形であれ続けていって欲しいものです。

ホンジュラス 7/2

最後のセミナーで提出してもらったレポートのなかに、『我々に足りないものは、それをやろうとする熱意である。』と書いていた理科教師がいた。

2年間の活動を振り返り、自分の活動の効果を、今、自分が、そのことについて書き綴ることはそんなに難しいことではない。しかし、本当の意味での“協力効果”は、現時点では語れないような気がする。

自分の2年間の活動が、中央高校の理科教師になんらかの影響を与えることができれば、2年前の中央高校の理科教育の現場と、これからの理科教育の現場は、ほんの少しでもいい、違ってくるのではないかと思う。それが私の活動の“協力効果”であろう。

今後の中央高校の理科教師の『熱意』に期待したい。

ソロモン諸島 7/2

この国の現状、ボランティアのあり方など、2年を終えようとしている今になって、ようやく見えはじめてきたような気がする。ようやくわかりはじめたところで、この国を去るのは、とても惜しい。赴任当時にせめて今の半分でも任国について理解していれば自分の活動ももっと幅が広がったのではないかと思うが、仕方のないことである。

この2年間で日本についても、外部から見つめることにより、またソロモンと比較することにより、良い点、問題点が少し見えてきた。特に、環境と開発について、自分なりにもっと勉強して取り組んで行こうと思う。

本当に価値のある2年間であった。

大使館援助で入った望遠鏡を使って生徒達と見たチョイセルの夜空と彼らの感激する姿は忘れられない思い出となることでしょう。夜中に偶然発見した百武彗星は衝動的だった。これらの貴重な体験をさせてくれた JOCV に、ソロモンの人々に、そして Choiseul Bay の生徒達に、感謝。

ケニア 6/2

①数学及び物理の授業②ゲームス・マスター（運動系顧問）③実験室の整備（実験器具をそろえる）④運動用具の整備⑤畑の耕作（生徒と共に、学校の畑を耕す）、その他（略）

以上が大まかな活動内容である。当然、毎日の授業に大半の時間が充てられ授業を通して生徒との交流があった。それ以外の事柄に関しても生徒の立場に立って何が必要であるかを考え、行動したつもりである。不十分な点も多いと思うが、それなりに自分自身満足できるものだった。これ以外には直接の自分の仕事ではないが、となりの小学校へひまな時間は遊びに行き、一緒に昼食を作り、時には授業をして一番の思い出のひとつとして記しておきたい。

ケニア 4/3

協力隊活動の本質「自助努力の促進」という点で考えると、私は結局、ボランティア活動をしたのかされたのかよく分からない。「自分で自分が助けられない人は人に助けてはもらえないのよ。」よく生徒にそういつてきたが、自分がどれだけその彼等の努力を促進できたかという疑問が残る。ただ最近の彼等には「自助努力」の意志がはっきりと見える気がする。

結局、人も国も一方的にではなくお互いに助け合って、やっと地球は一つになるのだろうか。

タンザニア 5/1

任期中私は生徒に接する機会をつくるよう努力した。放課後や休日に学校へ行っておしゃべりをしたり、家へよんで和食を食べさせたりした。相互理解を深めるよう日本の話や写真を見せたり、タンザニアの話をきいたりした。タンザニア人教師は“威厳”というものを重視していて、生徒にはいつも厳しく、あまりフレンドリーな態度はとらない。私は外国人であり、若いせいもあって、生徒は友達のようになつてくれた。

生徒だけでなく、私と知り合いになった人々は、これまでの“車、テクノロジー”という日本のイメージに、新たに私という“日本人”のイメージを加えたことだろう。良いイメージだとよいのだが。

トンガ 4/2

私自身のこの2年間の活動が真に協力活動になったかどうかはよくわからないところである。というのは、確かに理数科教師の不足している配属先に赴き、授業をしたという点のみを考えれば、協力活動と言えないこともないが、協力隊員という視点から考えると、いかにもお粗末な協力活動である。授業以上の何をやったのか、何を残したのかと言われれば、返答に窮するところである。2年間、特にこれといった事故もなく、可能な限りトンガ人と話をしたというのが私のやってきたことである。

日本国民の税金を使わせてもらったにもかかわらず、こんな事を述べるのは心苦しいが、可もなく不可もなく2年間経過したというところが、実際のところである。個人的に得たところとしては、

日本という国についての考え方の変化、トンガ文化の理解、南太平洋の人々の考え方を知ることができたといったところだと考えている。

PNG 8/1

常に学ぶ姿勢を持ちながら前向きに気持ちを保てたことは良かったと思う。ただその反面、「まず相手の立場に立って物事を考える」という日本的な考えが身体にしみついている私は自己主張に乏しく、思ったことをそのまま口にするという当たり前のことができず、表裏がなくストレートな感情や考えを表現できる PNG の人々の自然な姿から多くのものを学んだ。以心伝心という日本特有の文化の凄さも PNG で改めて考えた。ただ、それにあこがれ、自分自身のすべてを変えてしまおうという気持ちではなく、一般に外国人が日本人を見て感じる素晴らしいとされる礼儀正しさや謙虚さといった点を残しながら、この先数年を掛けて自己をハッキリと主張できるように努力したいと思う。それが PNG で見つけた私自身の最大の成果であり、課題だと思う。

ケニア 7/2

自分は隊員支援経費はいっさい使わず、物質的な援助は行わない事を決めた。その理由はいつまでも他人をたよってはいつまでも一人歩きができず、先進国にしてもずっと援助を続ける事はできないので、自分一人で歩こうという意識と行動が必要であると考えたからである。自分でやる力があるのだから努力して自分でやってほしいのである。自分の力でより良い方向を考えて発展して行ってほしいのである。これがなかなかわかってもらえず前任者は何を買ってくれた、まわりのボランティアはどうだ、金があるのにケチでいじわるだ等相当せめられうらまれもした。しかし自分の考えを信じ、マネージメントが悪いだけなのでそこを変える様話しを続けきた。校長は全く変えようとせずあきらめかけている頃、前述の様にチエアマンと話しをし、わかってもらえた時は本当にうれしかった。学校はケニアという国の縮図でもある。

フィリピン 7/1

活動の対象は学校教員だったが、活動していく上で、DECS (教育省) や DOST (科学技術省) の中央の人々、および地方オフィスの人々、高校の校長、一般教員、そして生徒達まで、フィリピンの「教育」そのものに中央から末端の現場まで広く関わり、見聞きし、知ることができた。また現場レベルでの学校教育や授業が、どのように地方や中央の教育省の方針や政策に影響を受けているかということも実際に見て知ることができた。このような形で関わられたのもプロジェクト隊員として派遣されていたからであり、日本にいたり、一般隊員として派遣されていたらこのように広い範囲で物事を見る経験はできなかったと思う。

私は海外生活をするのは初めてだったが、フィリピンの3年間の生活で異なる文化を理解し受け入れようとする態度を身につけることができたと思う。また日本を「One of them」、世界中の沢山ある国の中の一つ、として見るようになった。そして自分がいかに日本について知らないかを実感した。

おそらく他の多くの隊員と同様、やはり私もこちらの人々に教えたり与えたりできたことよりも、彼らから直接的に、間接的に、教わったり与えられたりしたことの方が大きかった。そしてその事に満足している。

フィリピン 7/2

私は教育学部を卒業後すぐに赴任したので教員経験がない。私が2年間でしたことは、技術移転と同時に、自分自身が教育についてさらに学んだということである。私は、CP の必要な知識にた

いして、不足しており、さらに学ぶことが必要であった。しかし、異国でのこと、限られた資料などではそれも難しく、自分の言動に自信が持てないこともしばしばあった（特に教授法について）。

RSTC 所長の Dr. Nora Licup は、「隊員は生徒に教えた経験のない人がある。ましてや教員指導の経験がある人は誰もいない。だから2年間で学んでプロフェッショナルになっていけばいい。隊員の態度や新しい知識は刺激を与えてくれることができるので、それだけでも十分である。」というような感想を聞かせてくれた。つまり、技術移転では十分でないかもしれないが私たちの存在自体が RSTC の活性化になっているというのである。仕事に対する姿勢が認められているのは嬉しいことだが、しかし、所長の意見とは裏腹に技術移転という本領を発揮できなかったということが悔やまれる。

協力活動は順調におこなわれており、業務内容を考えたうえで半年間の任期延長を行うこととした。

フィリピン 7/3

2年間を振り返り、自分にとっても協力隊活動は大変有意義であったと感じている。幾つか項目をあげる。

(1) 女性がイキイキと働く姿を見ることが出来た。

官庁や学校関係者の殆どは女性である。管理職も断然女性の方が多く、能力も高いと思われる。

日本で働いていると、結婚や出産後も仕事を続けている女性を見る機会が大変少ない。もしかすると働き続けることは、女性にとって“悪”であったり、能力に限界があるのかもしれないと残念ながら感じることもあ

(5) 心に向き合うフィリピン人に生き方を学んだ。

心をケアするということが日本に比べてかなり一般的なようであり、悩みを人に相談すること、人の話を聞くこと、それによってその人の心を和らげることに重きをおく優しい文化がフィリピンにはあった。これによって、私も自分の心、人の心にじっくり向き合ってみる時間を持てた。

人として仕事をし生活をするということを、学んだように思う。

(6) 沢山の笑顔に出会えた。

トレーニングやサーカスの後、参加してくれた生徒達や先生方が満足そうに笑顔を向けてくれる瞬間、本当に幸せな気分になる。この気分を存分に味わえた協力活動を行う機会を与えられたこと、そして周りで支えてくれた全ての人に感謝し、今後何らかの形で恩返ししていける人生にしたいと思う。

先輩隊員の多くが言うように、2年間で自分が与えたものよりも自分がもらったものの方が何倍も何倍も多かったと実感している。

「あとかき」に代えて

— かくして任地は第2の故郷となる —

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
LIBRARY

「あしがき」に代えて——かくして任地は第2の故郷となる——

「隊員の活動は仕事だけではない」といわれる。任地に溶け込んで任地の友人を得てこそ第2の故郷となる。

帰国した隊員が、教えた生徒の卒業式に訪れたり、新婚旅行に任地訪問を加えたり、いや、任地で結婚式をあげた、という例をいくつも聞いている。そのようになるには、任地でどんな生き方をしたらよいだろうか、最後に“あしがき”として記しておきたい。

1 任地の人たちとのコミュニケーションを楽しもう

(1) 校内でのコミュニケーション

○教員相互で話し合いができるようにする。それにはまず、学校の実態を知ることである。歴史やルール（校則）やシステム（組織・教育構造）を同僚との対話によって知る必要がある。対話のきっかけは質問することでおかむのがよい。

○理科室を使用するに当たってのルールや器具・薬品の使用上の注意等について理科部教師、特に理科主任との対話をよくするよう心掛ける。

○生徒とのコミュニケーションがよくできるようにすることが、教師として最も重要なことである。なぜなら生徒相手の活動が最も重要だからである。

- ・名前を覚えること。名前を呼んで「授業」ができるようにする。
- ・生徒の長所を見つけてやる。「きみは何が得意なのか」と訊いてやる。
- ・自分の得意な分野を生徒にわからせてやるのもよい。得意な学問の分野、得意なスポーツ、音楽特に楽器の演奏などよい。

(2) 校外でのコミュニケーション

○近所の人たちと仲よくなる。

- ・買い物によく出かけるとよい。お店の人たちと仲よになれる。
- ・現地の料理をつくってみる。つくり方を教えてもらう。質問する。自分でつくってみる。試食してみる。ごちそうする。
- ・隣りの人と同じような生活をしてみる。畑をつくる。収穫をわかちあう。

2 任地の歴史、文化を知ることを楽しもう——地球上文化果つる処なし——

歴史を持たない国はなく、文化を持たない民族はない。隊員が活動するところは途上国であり、経済的に貧しい。しかし、見つけようとするれば、彼等がたどった歴史があり、育んだ文化をもっている。見つける目を持つことである。地球上文化果つる処などない。見つけようとしなかっただけである。

(1) 音楽について

どこの国にも、いや、どの部族にも固有の音楽をもっている。日本にない珍しい楽器がある。それらを修得して帰る隊員もいる。コミュニケーション手段として音楽はよい。

〈例〉

アフリカのドラム、親指ピアノ、ポリビアのパンの笛。パラグアイのハーブ。
笛はどの国にもある。現地の曲が吹けたら立派なものである。

(2) 美術工芸について

絵を見ただけでどこの国の作品か一目瞭然のものがある。その技法を覚えて帰るとよい。現地の文化を知ると共に、コミュニケーションをとる手段としても有効である。

〈例〉

- アフリカではタンザニアの「ティンガティンガ」という装飾絵画や、エチオピアの目玉を誇張した人物像など。
 - 中米のパナマには「モーラ」と呼ぶパッチワーク風に縫いあわせた図柄がある。
 - 中東はミニアチュールと呼ばれる精密画がある。
 - パキスタンには毛糸による全面刺しゅうで絵を描く。点描の方式である。
- 以上は絵画の特徴である。
- 彫刻で人の形や動物の形がつけられている。アフリカのサハラ砂漠の南の国々は黒人社会で、黒い硬質の木に彫刻されている。動物の多い国々なので、動物の木彫がすぐれている。
 - ソロモン諸島とパプア・ニューギニアは隣り合っているが、木彫人形の造型は全く異っている。メラネシア人の国とパプア人の国という民族のちがいによる。マーシャル、ミクロネシアに行くと、また人形の顔が異なるのである。人形の顔付に民族固有の文化が見られる。

(3) 衣・食・住の生活文化について

○生活文化は現地の気候風土に合ったものである所以適応していく努力が必要であり、それが、地域住民との共生に役立つことである。

特に「食」については体力、活動のエネルギー源であるから、現地食に慣れ親しむ努力が必要である。衣・食・住は“健康維持”の手段であることを忘れてはならない。

〈例〉

- ソロモン諸島の隊員の中に、現地人と同じリーブハウスといわれるヤシの葉で屋根、壁面がつけられている家に住んでいた者がいて、地域住民に大へん親しまれていた。
- 同じソロモンで、「石蒸し」の料理法を共にして共同生活していた。
- パラグアイ等南米では、マテ茶のまわし呑みをよくしている。
- ガーナやフィリピンではヤシ酒（パームヤシから採った水分が発酵したもの）をまわし呑みしている。
- アフリカのセカンダリスクールは寄宿制（ボーディング・スクール）が多く、教員も生徒と共に給食を食している。
- ミクロネシアのヤップ島は、男女共上半身は裸で、下は男子はフンドシ、女子は腰巻きという服装である。男子隊員の中には現地スタイルで活動し、慣れ親しまれていた。
- ブータンの男子隊員は日本の丹前（どてら）に似た民族衣装を着て、ブータン人と区別がつかない。

(4) その土地の風俗習慣について——特に「お祭り」に参加しよう

- 土地の人々との交際については、注意をはらう必要がある。タブーについて知らなければならぬ。それには、知識として知るだけでなく、日常の交際を通して知ることが望まれる。
- 「お祭り」は“よろこび”の活動である。よろこびを共有できるような付き合いがよい。地域の一員であることを承認される場でもある。

3 日本から来た青年として、日本の文化を伝えよう——文化交流も一つの使命——

任地の文化を知ることの楽しさと同時に、任地の人たちに日本の文化を知ってもらう活動も大切である。彼らにも日本の文化を知る楽しさを知らせることである。

つまり、“異文化理解”だけでなく、“異文化コミュニケーション”に努めてほしいということである。日本の文化について何か得意な分野を持ってほしい。何か一つ“技”を身につけてほしいのである。理数科教師としての本職ではない。本職でない得意技が、どんなに協力活動をスムーズにし、豊かな稔りをもたらすか、彼らの報告書が語ってくれている。

- 折り紙の本を持って行って、任地の子どもたちや隣人のおばさんたちと仲よしになった報告もある。
- 活け花を教えた隊員もあれば、日本の童謡をよく歌って聞かせたという隊員もいる。
- 学校での活動で、“日本クラブ”をつくったり、“日本コーナー”で日本について知らせる掲示板をつくったりした隊員については既に記した。
- 学校の行事として、日本的行事とってよい“運動会”を計画実施して喜ばれたり、保護者に参加してもらう“文化祭”を実施した隊員もいる。後者については報告書が出されていたので、“実践記録”としてとりあげた。参考になるであろう。

4 隊員報告書は“自分史”であり、自分の生き方を見つめる記録となる

義務として書くだけでなく、自分史として己の意志で書くというのがよい。書くことが好きな人と、嫌いな人がいることはやむを得ない、文章を書くことの得意、不得意があることもやむを得ない。表現の仕方にとられる前に、記録することの大切さを知ってほしい。

隊員としての活動事項は客観的に書かなければならない。教師隊員の場合は、生徒なり教師なりが活動の対象であるから、どのような反応があったかを記録として残したいのだ。この記録は後輩隊員への資料提供となる。加えて、感想を記しておきたい。それを書くことによって個性の出た記録となる。“自分史”としての記録になる。やった事実だけの記録だけならば、“皆同じ”ということになる。感想が入って書いた人の顔が出る。“顔の見える報告書”であってほしいのである。

5 障壁は乗り越えるためにある。乗り越えることを楽しもう

隊員が突きあたるいくつかの障壁がある。ことば、異なった食生活、習慣、厳しい自然等々日本と異質の環境は障壁だらけである。これらの壁は全て乗り越えることができる壁である。それは先輩隊員が証明してくれている。失敗を恐れないことである。失敗したら再挑戦すればよいではないか。

筆者は教育協力、教育交流の仕事で、約8年間、中東の地にいたことがある。そこで出会った“こ

とわざ”に「明日の心配は明日すればよい」「明日の仕事は明日やればよい」というのがあった。「ナント大らかなことよ」と元気になったものである。どこの国にもそこでの生活に合ったよい“ことわざ”がある。それを見つけてほしい。きっと元気を出させてくれるであろう。そうなったとき、任地は第2の故郷となる。とにかく“元気が一番”なのである。ご活躍を祈る。

附 属 資 料

— 調査活動報告集 —

Handwritten text, possibly a signature or a small note, located in the upper center of the page.

1 ザンビア 日本・ザンビア生徒意識比較調査

「日本・ザンビア生徒意識比較調査」 1994.2実施
 ——生徒意識調査集計結果途中報告——

☆ 調査にあたって

1. 標本抽出校

ZAMBIA

MPIKA. SEC. SCHOOL	(政府系寄宿制)	GRADE9	男42名	
		GRADE12	男55名	
SERENJE. SEC. SCHOOL	(政府系寄宿制)	GRADE9	男38名	
		GRADE11	男36名	
St. JOSEPH. SEC. SCHOOL	(ミッション系寄宿制)	GRADE11		女54名
JUMBE. SEC. SHCOOL	(政府系寄宿制)	GRADE12	男22名	女21名
NCHELENJE. SEC. SCHOOL	(政府系寄宿制)	GRADE11	男27名	女23名
LUKUL II SEC. SCHOOL	(ミッション系通学制)	GRADE9	男44名	女18名
		GRADE11	男22名	女11名

ジュニア男122名 女 18名 (ジュニア→GRADE9)
 シニア 男164名 女109名 (シニア→GRADE11,12)
 計 男286名 女127名

日本

市ヶ尾高等学校	1年生	男 35名	女 42名
八日市中学校	3年生	男 38名	女 31名
	計	男 73名	女 73名

調査人員 合計 559名

2. 調査年齢

ザンビア	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	平均年齢
ジュニア男	1名	1名	6名	25名	28名	25名	18名	14名	4名	16.2歳
ジュニア女	0名	0名	0名	4名	7名	6名	1名	0名	0名	16.2歳

	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	平均年齢
シニア男	3名	1名	2名	9名	19名	42名	40名	37名	6名	3名	0名	1名	1名	18.6歳
シニア女	0名	1名	11名	22名	27名	28名	14名	6名	0名	0名	0名	0名	0名	17.2歳

日本 ジュニア男女とも 15歳
 シニア 男女とも 16歳

3. 調査実施日 1994年2月

4. 調査項目

1992年に T. N. 隊員によってまとめられた“セカンダリースクール生徒意識調査”をもとに作られてい

る。今回は日本の子供達にも調査の枠を広げたので、ザンビアと日本の子供達の意識の比較が可能である。ただし、まだ日本の子供とザンビアのジュニア女子のデータ数が不足しているので、これらのデータを補って最終の生徒意識調査結果をまとめる予定である。

5. アンケート調査実施者

- T. N. (四日市中学校)
- H. Y. (市ヶ尾高等学校)
- N. S. (MPIKA SEC. SCHOOL)
- H. U. (LUKULU SEC. SCHOOL)
- K. K. (NCHBLENGE SEC. SCHOOL)
- F. M. (JUMBE. SEC. SCHOOL)
- N. Y. (St. JOSEPH SEC. SCHOOL)
- T. W. (SERENJE SEC. SCHOOL)

1. あなたの一番の趣味は何ですか？
What kind of hobby do you like the best?

ザンビア			
ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
サッカー 39.3%	サッカー 20.7%	ネットボール 67.7%	読書 18.3%
読書 13.9	読書 18.3	映画 16.7	スポーツ 17.4
ダンス 4.9	音楽 14.6	読書 11.1	読物 15.6
勉強 4.1	読物 8.5	勉強 5.6	料理 10.1
バレーボール 4.1	絵画 7.9	料理 2.8	音楽 10.1
バスケットボール 4.1	読物 5.5	読物 2.8	文通 9.2
日本			
ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
音楽 23.7%	スポーツ 17.1%	音楽 29.0%	音楽 28.6%
スポーツ 10.5	音楽 11.4	読書 19.4	読書 10.0
つり 5.3	読書 8.6	スポーツ 12.9	映画 7.1
楽器 5.3	サッカー 5.7	料理 6.5	スポーツ観戦 4.8
読物 5.3	野球 5.7	ピアノ 6.5	ピアノ 4.8
収集 5.3	楽器 5.7	パズル 6.5	寝る 4.8

2. 親友は何人いますか。
How many good friends do you have?

ザンビア

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
2~3人	38.5%	2~3人	42.7%	2~3人	38.9%	2~3人	33.9%
1人	29.6	4~6人	19.5	10人以上	27.8	4~6人	20.2
10人以上	18.0	1人	18.3	4~6人	16.7	10人以上	18.3
4~6人	13.9	10人以上	13.4	1人	16.7	1人	18.3
7~9人	2.5	0人	4.3	7~9人	0.0	7~9人	11.9
0人	2.5	7~9人	1.8	0人	0.0	0人	3.7

日本

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
10人以上	35.5%	4~6人	35.7%	10人以上	60.5%	2~3人	28.6%
4~6人	22.6	2~3人	35.7	4~6人	15.8	10人以上	22.9
2~3人	22.6	10人以上	14.3	2~3人	10.5	4~6人	17.1
7~9人	9.7	7~9人	10.0	7~9人	5.3	7~9人	14.3
1人	0.0	1人	2.4	1人	2.6	1人	8.6
0人	0.0	0人	2.4	0人	2.6	0人	5.7

3. 異性の友達が何人いますか？
How many opposite sex friends do you have?

ザンビア

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
1人	36.1%	2~3人	28.0%	1人	36.1%	2~3人	28.0%
2~3人	24.6	1人	22.6	2~3人	24.6	1人	22.6
0人	20.5	0人	17.1	0人	20.5	0人	17.1
4~6人	8.2	4~6人	13.4	4~6人	8.2	4~6人	13.4
10人以上	8.2	10人以上	13.4	10人以上	8.2	10人以上	13.4
7~9人	2.5	7~9人	5.5	7~9人	2.5	7~9人	5.5

日本

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
10人以上	44.7%	4~6人	37.1%	0人	29.0%	0人	38.1%
4~6人	21.1	2~3人	28.6	10人以上	19.4	10人以上	21.4
2~3人	18.4	10人以上	17.1	4~6人	16.1	2~3人	19.0
7~9人	7.9	7~9人	8.6	2~3人	12.9	4~6人	14.3
1人	5.3	1人	2.9	1人	9.7	7~9人	7.1
0人	2.6	0人	2.9	7~9人	9.7	1人	0.0

4. 恋人は何人いますか。
How many lovers do you have?

ザンビア

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
2人	27.0%	1人	26.2%	5人以上	38.9%	0人	43.1%
5人以上	25.4	0人	23.2	1人	16.7	1人	26.6
1人	19.7	2人	20.1	3人	16.7	2人	16.5
4人	13.1	5人以上	12.2	4人	16.7	3人	11.9
3人	11.5	3人	10.4	2人	11.1	5人以上	4.6
0人	4.1	4人	7.9	0人	0.0	4人	1.8

日本

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
0人	89.5%	0人	82.9%	0人	83.9%	0人	81.0%
1人	7.9	1人	17.1	1人	16.1	1人	16.7
2人	2.6	2人	0.0	2人	0.0	2人	2.4
3人	0.0	3人	0.0	3人	0.0	3人	0.0
4人	0.0	4人	0.0	4人	0.0	4人	0.0
5人以上	0.0	5人以上	0.0	5人以上	0.0	5人以上	0.0

◎特にザンビアでは“恋人 (lover)”は肉体関係があると考えられる。

5. 卒業後、何の職業につきたいですか。
After graduation, what kind of job do you want to have?

ザンビア

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
教師	20.5%	エンジニア	42.7%	看護婦	44.4%	看護婦	35.8%
医者	18.9	会計士	10.4	教師	16.7	会計士	11.9
エンジニア	13.1	医者	7.3	旅館	11.1	ジャーナリスト	7.3
ドライバー	13.1	ドライバー	6.7	スタッフ	5.6	法律家	6.4
パイロット	12.3	教師	6.1	秘書	5.6	エンジニア	5.5
法律家	3.3	牧師	6.1			医者	4.6

日本

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
未定	23.7%	未定	28.6%	未定	38.7%	未定	33.3%
フリーランス	10.4	文筆家	8.6	美容師	9.7	教師	10.0
自営業	5.3	公務員	8.6	調理師	9.7	演劇	7.1
ライター	5.3	自営業	5.7	OL	9.7	福祉	7.1
建築家	5.3	医者	5.7	イラストレーター	6.5	獣医	4.8
能楽師	5.3	音楽家	5.7	ファッション関係	6.5	保母	4.8

◎日本の生徒からはここに記載できないのが残念だが様々な職業が出された。ザンビアに比べ日本の職業選択の幅はだいぶ広いといえる。しかし、一番多いのが、つきたい職業が決まっていないという生徒である。

6. あなたにとって一番大切なことは何ですか。
What is the most important thing to you?

ザンビア

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
教育 58.2%	教育 48.2%	教育 72.2%	教育 46.8%
命 5.7	神 17.1	命 9.7	神 19.3
お金 5.7	命 7.9	労働 5.6	家族 12.8
労働 4.1	家族 7.3	家族 5.6	命 8.3
神 3.3	お金 4.9	学校 5.6	食事 4.6
家族 3.3	友達 4.9		友達 3.7

日本

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
命 23.7%	命 14.3%	友情 25.8%	心 21.4%
心 10.4	自分 14.3	命 12.9	友情 21.4
自分 5.3	健康 11.4	健康 9.7	命 20.0
友情 5.3	楽しむ 8.6	愛 6.5	平和 9.5
愛 5.3	愛 5.7	勇気 6.5	家族 9.5
健康 5.3	夢 5.7		自分 4.8

◎日本の生徒の中ではなかった“教育”という答えがザンビアの生徒の大多数の答えである。

7. もし、大金を手に入れたら、何を買いたい、あるいはほしい、ですか。
If you get a lot of money, what do you want to have?

ザンビア

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
車 32.0%	ビジネス始める 26.2%	ビジネス始める 16.7%	家 22.9%
ビジネス始める 13.9	車 16.5	土地 16.7	車 12.8
勉強 11.5	勉強 11.6	勉強 11.1	親を助ける 11.9
化粧品 9.0	家 9.1	親を助ける 11.1	服 11.1
服 7.4	親を助ける 6.1	化粧品 5.6	おいしいものを助ける 9.2
家 3.3	化粧品 5.5		ビジネス始める 9.2

日本

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
貯金 13.2%	貯金 22.9%	家 32.2%	旅行 33.32
家 7.9	家 22.9	貯金 25.8	貯金 26.2
服 7.9	旅行 11.4	服 16.1	服 20.0
旅行 5.3	いかい貯 5.7	旅行 9.7	いかい貯 11.9
車 5.3	本 5.7	CD 6.5	家 4.8
食べ物 5.3		本 6.5	寄付 4.8

◎“車”“家”“服”は両国の生徒がともにあげている。しかし、ザンビアの子たちは“ビジネスを始める”日本の子供達は“貯金する”という答えが特徴的である。

8. 困ったときだれが一番あなたを助けてくれますか。
Who is your best adviser when you are in trouble?

ザンビア

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
父, father 32.0%	父, father 24.4%	友達 38.9%	友達 41.3%
友達 23.0	友達 23.2	両親 22.2	両親 20.2
両親 16.4	両親 13.4	父, father 16.7	母 12.8
教師 13.9	家族 11.1	母 11.1	家族 11.0
家族 10.7	教師 6.7	家族 11.1	父, father 2.8
カカ外 3.3	神 5.5	神 5.6	神 2.8

日本

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
友達 36.8%	友達 28.6%	友達 74.2%	友達 73.8%
自分 15.8	両親 28.6	家族 19.4	両親 20.0
両親 13.2	自分 11.4	両親 19.4	母 11.9
家族 5.3	家族 8.6	母 6.5	自分 11.9
いかに 5.3	神 5.7	恋人 3.2	いかに 4.8
いかに 18.4	いかに 11.4		

◎ザンビアの生徒の“父、father”という答えは“自分の父親”を指す場合と“神父”を指す場合とある。この結果の中では両者を区別して扱っていない。

9. あなたは嘘をついたことがありますか。
Have you ever told a lie?

ザンビア

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
SOMETIMES 43.4%	SOMETIMES 72.6%	SOMETIMES 61.1%	SOMETIMES 80.7%
NEVER 26.2	SELDOM 11.6	SELDOM 16.7	SELDOM 6.4
ALWAYS 7.4	NEVER 9.1	ALWAYS 11.1	NEVER 6.4
OFTEN 4.1	ALWAYS 2.4	NEVER 5.6	OFTEN 3.7
SELDOM 3.3	OFTEN 1.8	OFTEN 5.6	ALWAYS 2.8

日本

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
SOMETIMES 44.7%	SOMETIMES 40.0%	SOMETIMES 58.1%	SOMETIMES 66.7%
OFTEN 18.4	NEVER 34.3	SELDOM 35.5	SELDOM 23.8
SELDOM 13.2	SELDOM 20.0	OFTEN 6.5	OFTEN 7.1
ALWAYS 13.2	OFTEN 2.9	NEVER 0.0	NEVER 0.0
NEVER 10.5	ALWAYS 2.9	ALWAYS 0.0	ALWAYS 0.0

10. あなたの国が発展するためにはどうすべきだと思いますか。
How do you think your country will develop?

ザンビア

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
一生懸命働く 15.6%	一生懸命働く 26.2%	一生懸命働く 22.2%	一生懸命働く 22.2%
産業の拡大 13.9	教育 20.1	協力 11.1	教育 22.2
教育 13.1	産業の拡大 12.8	輸出の拡大 5.6	協力 12.8
農業 12.3	協力 7.3	教育 5.6	指導者の教育 10.1
協力 6.6	農業 7.3	産業の拡大 5.6	農業 2.8
輸出の拡大 4.9	指導者の教育 4.3		労働組合の拡大 1.8

日本

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
国際交流 18.4%	政治改革 22.9%	政治改革 48.8%	政治改革 19.0%
一生懸命働く 10.5	親しくてよい 11.4	国民の団結 19.4	国際交流 14.3
協力 10.5	国民が考える 11.4	親しくてよい 12.9	国民が考える 10.0
政治改革 7.9	国際交流 11.4	国際交流 6.5	親しくてよい 7.1
親しくてよい 7.9	産業の拡大 5.7	産業の拡大 6.5	教育 4.8
自然の保護 5.3	教育 5.7	若い人が働く 3.2	学習社会を無くす 2.4

◎ザンビアが経済的に豊かになるためには“農業”を基礎においた経済政策を発展させていくべきであるという声が生徒の中から聞かれる。

日本の子供達からは“日本は発展し過ぎ”“このままで良い”という答えが帰ってきた。また、近年特に日本では“国際交流”が叫ばれており、子供達の中にもそれがこの質問の回答として出されたのは喜ばしいことである。ただ今後これが単に言葉だけで終わることのないよう子供達自身でそれを探求し真の実現をめざしてほしいと思う。

11. あなたは何の教科が好きですか？
What subject do you like the best?

ザンビア

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
英語 47.5%	数学 22.0%	英語 61.1%	英語 48.6%
数学 20.5	化学 22.0	公民 22.2	生物 13.8
理科 12.3	英語 20.1	数学 16.7	数学 11.0
地理 9.0	読解 7.9	理科 11.1	化学 5.5
公民 9.0	商業 6.7	歴史 5.6	物理 5.5
歴史 7.4	物理 4.9	家庭 5.6	家庭 4.6

日本

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
体育 23.7%	体育 22.9%	体育 19.4%	英語 28.6%
数学 21.1	理科 20.0	国語 19.4	音楽 22.0
英語 18.4	数学 17.1	社会 12.9	数学 17.1
理科 10.5	国語 11.4	数学 12.9	国語 11.9
社会 7.9	英語 8.6	音楽 9.7	体育 7.1
国語 5.3	社会 8.6	英語 9.7	美術 7.1

◎ザンビアのセカンダリースクールでは体育、美術、音楽などの芸術教科のある学校は少ない。

12. テストは好きですか。

Do you like test?

ザンビア

ジュニア 男

YES 97.5%

NO 2.5

シニア 男

YES 98.2%

NO 1.8

ジュニア女

YES 100.0%

NO 0.0

シニア女

YES 98.2%

NO 1.8

日本

ジュニア 男

NO 73.7%

YES 26.3

シニア 男

NO 85.7%

YES 14.3

ジュニア女

NO 93.5%

YES 6.5

シニア女

NO 100.0%

YES 0.0

13. テストで不正をしたことがありますか。

Have you ever cheated at tests?

ザンビア

ジュニア 男

NEVER 46.7%

SOMETIMES 45.1

ALWAYS 4.1

OFTEN 3.3

SELDOM 0.0

シニア 男

SOMETIMES 40.9%

NEVER 37.8

SELDOM 12.8

OFTEN 4.3

ALWAYS 3.0

ジュニア女

NEVER 44.4%

SOMETIMES 27.9

ALWAYS 5.6

OFTEN 5.6

SELDOM 0.0

シニア女

SOMETIMES 39.4%

NEVER 11.0

SELDOM 9.2

ALWAYS 5.5

OFTEN 0.0

日本

ジュニア 男

NEVER 94.7%

SELDOM 2.6

SOMETIMES 2.6

OFTEN 0.0

ALWAYS 0.0

シニア 男

NEVER 88.6%

SELDOM 5.7

SOMETIMES 5.7

OFTEN 0.0

ALWAYS 0.0

ジュニア女

NEVER 100.0%

SELDOM 0.0

SOMETIMES 0.0

OFTEN 0.0

ALWAYS 0.0

シニア女

NEVER 83.3%

SELDOM 14.3

SOMETIMES 2.4

OFTEN 0.0

ALWAYS 0.0

14. あなたは他の人と比べてよく勉強しますか。

Do you study harder than others?

ザンビア

ジュニア 男

YES 57.3%

EQUAL 35.2

NO 7.5

シニア 男

YES 44.5%

EQUAL 38.4

NO 17.1

ジュニア女

YES 44.4%

EQUAL 44.4

NO 11.2

シニア女

EQUAL 61.5%

YES 22.9

NO 15.6

日本

ジュニア 男

NO 52.6%

EQUAL 34.2

YES 13.2

シニア 男

NO 77.1%

EQUAL 22.9

YES 0.0

ジュニア女

NO 67.7

EQUAL 25.8

YES 6.5

シニア女

NO 64.3%

EQUAL 36.7

YES 0.0

15. 授業から抜け出したことがありますか。
Have you run away from lesson?

ザンビア

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
NEVER 74.6%	NEVER 71.3%	NEVER 77.8%	NEVER 54.1%
SOMETIMES 20.5	SOMETIMES 20.1	SELDOM 11.1	SOMETIMES 33.0
SELDOM 2.5	SELDOM 4.9	SOMETIMES 11.1	SELDOM 11.0
OFTEN 1.6	OFTEN 1.8	OFTEN 0.0	OFTEN 1.8
ALWAYS 0.8	ALWAYS 1.4	ALWAYS 0.0	ALWAYS 0.0

日本

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
NEVER 94.7%	NEVER 88.6%	NEVER 100.0%	NEVER 83.3%
SELDOM 2.6	SELDOM 5.7	SELDOM 0.0	SELDOM 14.3
SOMETIMES 2.6	SOMETIMES 5.7	SOMETIMES 0.0	SOMETIMES 2.4
OFTEN 0.0	OFTEN 0.0	OFTEN 0.0	OFTEN 0.0
ALWAYS 0.0	ALWAYS 0.0	ALWAYS 0.0	ALWAYS 0.0

16. 学校で一番おもしろいことは何ですか。
What is the most interesting in your school life?

ザンビア

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
勉強 68.9%	勉強 61.1%	勉強 55.5%	勉強 34.9%
サッカー 8.2	友達 11.0	友達 16.7	友達 19.3
読書 4.1	スポーツ 10.1	読書 11.1	スポーツ 12.8
友達 3.3	エンターテイメント 4.3	ネットボール 11.1	読書 4.6
	クラブ 1.8	クラブ 5.6	歌 1.8

日本

ジュニア 男	シニア 男	ジュニア女	シニア女
友達 47.4%	友達 34.3%	友達 71.0%	友達 57.1%
クラブ 10.5	勉強 22.9	クラブ 9.7	クラブ 12.8
全体 5.3	クラブ 17.1	行事 3.2	勉強 7.1
弁当 5.3	行事 5.7	全体 3.2	行事 7.1
なし 26.3	なし 14.3	なし 9.7	なし 7.1

17. この学校で一番厳しいルールは何ですか。

What do you think is the strict rule at this school?

ザンビア

ジュニア 男

学校外へ出られない 59.9%
制服 4.9
尊敬 4.1
現地語使用禁止 2.5

シニア 男

学校外へ出られない 54.2%
禁煙 20.1
セックス禁止 4.3
制服 2.4

ジュニア女

学校外へ出られない 50.0
制服 16.7
尊敬 9.7
現地語使用禁止 3.2

シニア女

学校外へ出られない 40.4%
制服 15.6
セックス禁止 4.6
現地語使用禁止 2.8

日本

ジュニア 男

交通規則 23.7%
(ヘルメット着用)
制服 18.4
髪型が長い 5.3
髪形 2.6
無回答 44.7

シニア 男

登校時間が早い 25.7%
単位を取る 5.7
制服 5.7
交通規則 5.7
無回答 54.3

ジュニア女

制服 16.1%
交通規則(自転車) 16.1
髪形 3.2
無回答 61.3

シニア女

制服 14.3%
登校時間 9.5
授業に出られない 2.4
無回答 64.3

18. (1) 学校で誰かにいじめられたことがありますか。

Have you ever bullied by someone at this school?

ザンビア

ジュニア 男

NO 53.3%
YES 46.7

シニア 男

YES 52.4%
NO 48.6

ジュニア女

NO 61.1%
YES 38.9

シニア女

NO 56.9%
YES 43.1

日本

ジュニア 男

NO 84.2%
YES 15.8

シニア 男

NO 88.6%
YES 11.4

ジュニア女

NO 67.7%
YES 32.3

シニア女

NO 83.9%
YES 16.1

(1) で“①はい”と答えた人のみ(2)の質問に答えてください。

Follow the next question. If your answer is YES.

(2) そのとき、あなたはだれかに相談しましたか。

Did you get any advice from someone at that time?

ザンビア

ジュニア 男

YES 73.7%
NO 27.3

シニア 男

YES 69.8%
NO 30.2

ジュニア女

YES 100.0%
NO 0.0

シニア女

YES 95.7%
NO 4.3

日本

ジュニア 男

NO 100.0%
YES 0.0

シニア 男

NO 50.0%
YES 50.0

ジュニア女

YES 80.0%
NO 20.0

シニア女

YES 95.2%
NO 4.8

19. 学校で誰かをいじめたことがありますか。
Have you ever bullied at school?

ザンビア

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
NO	56.6%	NO	69.5%	NO	61.1%	NO	78.0%
YES	43.4	YES	30.5	YES	38.9	YES	22.0

日本

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
NO	50.0%	NO	94.3%	NO	71.0%	NO	83.9%
YES	50.0	YES	5.7	YES	29.0	YES	16.1

20. この学校で何に満足していませんか。
What does not satisfy you at this school?

ザンビア

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
食事	51.6%	食事	69.5%	教師	33.3%	食事	41.3%
教師	9.8	教師	15.2	給食が安い	11.1	労働	16.5
校則	8.2	給食	10.4	スポーツが安い	11.1	教師	8.3
給食	5.7	制服	7.3	なし	44.4	罰	3.7
労働	2.5	労働	3.7			給食	2.8

日本

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
給食	15.8%	給食	22.9%	制服	32.3%	給食	28.6%
全て	13.2	教師	11.4	給食	16.1	校則	15.0
校則	7.9	給食が安い	5.7	給食が高い	9.7	制服	10.0
生徒会	2.6	行事	5.7	校則	3.2	行事	3.7
無回答	47.4	給食が高い	5.7	なし	32.3	給食が高い	2.4

◎ザンビアは寄宿制の学校が多い。朝、昼、晩の食事を見ると子供達が満足していないのも分かる。
また「労働」は授業中や自習時間でも薪拾いや水汲みといった作業をしなければならないことがある。

21. 今、あなたが行ってみたい国はどこですか。

Which country do you want to go?

ザンビア

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
日本	46.7%	日本	53.6%	日本	33.3%	アメリカ合衆国	22.9%
イギリス	16.4	イギリス	16.5	ザンビア	16.7	イギリス	20.2
アメリカ合衆国	9.8	アメリカ合衆国	15.2	アメリカ合衆国	11.1	日本	16.5
中国	4.9	中国	4.3	ドイツ	11.1	南アフリカ	2.8
						ドイツ	2.8

日本

ジュニア 男		シニア 男		ジュニア女		シニア女	
オーストラリア	28.9%	アメリカ合衆国	22.9%	オーストラリア	19.4%	アメリカ合衆国	17.1%
アメリカ合衆国	13.2	オーストラリア	20.0	アメリカ合衆国	16.1	フランス	14.3
スイス	5.3	イギリス	11.4	フィンランド	6.5	オーストラリア	11.9
フランス	5.3	スイス	5.7	フランス	6.5	イギリス	7.1
				カナダ	6.5	スイス	7.1

◎ザンビアの子供達の日本への関心は「空手」「広島」「長崎」「ハイテクノロジー」等、大変高い。12年生の最終試験には毎年日本に関する問題が出てくるほどである。

その国を訪れたい理由として、ザンビアの生徒は「学ぶ目的」、日本の生徒は「余暇の目的」となっていた。

◎終わりに

“子供達を深く知りたい。”そのための一つの手段がこのような意識調査を行っ掛けになった。また、子供達にはアンケートの質問項目を答えることによって、そのなかで自分自身を見つめ直す機会を得たことを期待したい。

2 タンザニア タンザニア人生徒の日本人教師観

「タンザニア人生徒の日本人教師観」 1995年実施
——統一アンケート調査結果とまとめ——

1. 背 景

中断されていたタンザニアへの教師隊員の派遣が1990年に再開され、現在1994年の時点で活動中の教師隊員総数は約30名となりました。この四年間における教師隊員数の増加により、全タンザニア協力隊員に占める教師の割合は30%を越えるまでになり、現在最も活動的に運営されている職種一つです。もちろんこの急激な数の増加はタンザニア政府からの要望によるものであり、その意味ではタンザニア政府がいかに対応した教師隊員派遣数の増加は効果的に進められた援助活動の結果ですが、ここで忘れてならないのが現場である学校の状況です。教師隊員は語学的なハンディを克服した上で効果的に授業を行っているか。生徒たちは日本人教師をどの様にとらえ、その教師としての能力をどの様に判断しているのか。タンザニアの学校における施設面、運営面等における問題点とは。これらの事柄を確実に把握し反映させてゆく事が、教師隊員の活動をより意義のあるものとします。

タンザニアの中高等学校では公用語のスワヒリ語ではなく英語を授業にもちいます。これによって生じる問題点は特に深刻です。教師側の、あるいは生徒側の英語力不足はそのまま授業が成立しない結果に結びつきます。平成3年度にケニア、ザンビア、ガーナで実施されたアンケート調査においても教師隊員の語学力不足が問題点として強く指摘されており、タンザニアにおいても語学に関する調査とその問題点の把握が最重要と考えられます。生徒の語学力についての調査はタンザニア教育研究会による別のプロジェクトにより実施されています。本調査においては、アンケートの結果を参考に生徒が隊員の使う英語をどのように評価しているかを重点的に見てゆきます。

2. 目 的

タンザニア人生徒が日本人教師をどの様にとらえ、その教師としての能力をどう評価しているのか、また学校における問題点を生徒へのアンケートにより調査し、今後の隊員活動及び新隊員の選考等に反映させてゆくことを目的とします。

3. 方 法

アンケートの質問事項は、平成3年度にケニア、ザンビア、ガーナにおいて実施された生徒に対するアンケート調査をもとに作成された。アンケートは英語を用いて行われたが（別添アンケート用紙参照）ここではそれを日本語で紹介する。

問1：日本人教師にどのような印象を持ちますか。

問2：日本人教師とそれ以外の外国人教師を比較して、その主な違いは何ですか。

問3：日本人教師から受けている利益は何ですか。

問4：理数科の勉強は向上していますか。

問5：理数科の勉強は将来、役に立つと思いますか。

問6：日本人教師とコミュニケーションはうまくいっていますか。

問7：日本人教師について好きなところを挙げてください。

問8：日本人教師について嫌いなところを挙げてください。

問9：学校をより改善するため、学校側に望むものは何ですか。

問10：学校内で何か問題がありますか。問題があつたら、それを書いて下さい。

問11：学校生活で最も嬉しいことは何ですか。

問12：学校生活で最も悲しいことは何ですか。

問13：将来はどのような職種に就きたいですか。

問14：次の項目のうち最も興味のあるニュースは何ですか。（複数回答可）

- A 1) 世界の出来事 A 2) アフリカの出来事 A 3) 地域の出来事
 A 4) 学校での出来事 A 5) 家での出来事 A 6) その他

問15：次の項目のうち最も関心があるものは何ですか。(複数回答可)

- A 1) 戦争 A 2) 犯罪 A 3) 金、収入 A 4) 昇進
 A 5) 成功、失敗 A 6) 健康 A 7) 食糧 A 8) 娯楽
 A 9) 余暇 A 10) 愛 A 11) 性 A 12) 友情
 A 13) 成績 A 14) 電化製品 A 15) 車 A 16) 自転車
 A 17) ファッション A 18) スポーツ A 19) その他

アンケート調査は、タンザニア国内の隊員が派遣されている中高等学校より10校を選び実施した。極力一般的な回答を得るために多くの学校で行った。また、質問内容を良く理解できる様にAレベル(5、6年生)の生徒を中心に調査した。結果として、160名の生徒から回答が得られた。

アンケートの実施校は以下のとおりである。

- ・ Sengerema Secondary School：政府校、男子校
- ・ Milambo Secondary School：政府校、男子校
- ・ Buluba Secondary School：私立校、共学校
- ・ Galanos Secondary School：政府校、男子校
- ・ Mawenzi Secondary School：政府校、共学校
- ・ Kilakala Girl's Secondary School：政府校、女子校
- ・ Shinyanga Technical School：政府校、男子校
- ・ Ihungo Secondary School：政府校、男子校
- ・ Rugambwa Secondary School：政府校、女子校
- ・ Mkwawa Secondary School：政府校、共学校

4. 結 果

ここでは各質問に対する生徒の回答を網羅的に取り上げる。文末に書かれた数字は、同じ回答をした生徒の人数である。

問1：日本人教師にどのような印象を持ちますか。

- ・ 良い教師である。34
- ・ 英語に問題がある。27
- ・ 教え方が上手である。21
- ・ 優しい。19
- ・ 仕事好きである(良く働く)。14
- ・ 生徒と仲が良く、相談に乗ってくれる。11
- ・ 全ての生徒を解らせようと熱心に教える。11
- ・ 時間を良く守る。9
- ・ 豊富な知識を持っている。8
- ・ 板書が良くまとまっている。5
- ・ 良い教材を持っている。5
- ・ 授業に必ず来る。4
- ・ 経験不足であり、教師としての力量が不足している。4
- ・ 責任感が強い。4
- ・ 生徒に勉強させる様に励ます。3
- ・ 穏やかな(おとなしい)性格である。3
- ・ 生徒と良く会話をする。2
- ・ 日本の文化に強く印象を受ける。1
- ・ 授業のスピードが遅い。1

- ・人を差別しない。1
- ・生徒を良くほめる。1
- ・思いやりがある。1

問2：日本人教師とそれ以外の外国人教師を比較して、その主な違いは何ですか。

- ・日本人教師は英語が下手である。70
- ・特に違いはない。18
- ・日本人教師は優しい。19
- ・日本人教師は時間を良く守る。8
- ・生徒とより親しく、良く会話をする。7
- ・良く働く。7
- ・より熱心に授業をする。6
- ・日本人教師は教え方が上手である。6
- ・十分な知識を持っている。5
- ・より礼儀正しい。4
- ・英語の発音の仕方が違う。4
- ・日本人教師は教えるテクニックが不足している。4
- ・日本人教師は物質的に豊かである。3
- ・日本人教師の英語はシンプルで理解しやすい。3
- ・必ず授業に来る。3
- ・いろいろな援助をしてくれて役に立つ。2
- ・日本人教師のノートは解りやすい。1
- ・プレゼントをたくさん与える。1
- ・スワヒリ語をよく知っている。1
- ・より質素な生活を送っている。1
- ・日本人教師の授業は解りづらい。1

問3：日本人教師から受けている利益は何ですか。

- ・授業を良くしてくれる (成績が上がった)。51
- ・日本についての知識を吸収できる。45
- ・いろいろなプレゼントをもらえる (オルガン、スポーツ用品、旅行 etc) 17
- ・教材を与えてくれる。教材を使って教えてくれる。14
- ・全ての生徒が理解できる様に気を使って教えてくれる。12
- ・時間に正確な事。8
- ・上手に教えてくれる事。8
- ・まとまっている板書。7
- ・質問に対するていねいな対応。5
- ・時間外に授業をしてくれる。5
- ・必ず教室に来て教えてくれる事。3
- ・人としての生き方を教わった。2
- ・教師不足を補ってくれる事。2
- ・体罰しない事。1
- ・学費が未払いでもクラスに入れてくれる。1
- ・ピアノを教えてくれる。1
- ・まじめに取り組む姿勢を学んだ。1
- ・シンプルで解りやすい英語。1
- ・日本語を教えてくれる。1

・得るものはない。なぜならば英語が下手過ぎるから。 1

問4：理数科の勉強は向上していますか。

- ・はい、向上しています。130
- ・まだ向上していません。12
- ・なんとか少し向上しています。6

問5：理数科の勉強は将来、役に立つと思いますか。

- ・はい、役に立つと思います。139
- ・おそらく役に立つと思います。7
- ・タンザニアは技術的に遅れているので、役に立たないと思います。5

問6：日本人教師とコミュニケーションはうまくいっていますか。

- ・良いコミュニケーションが取られている。106
- ・いいえ。12
- ・言葉に問題が多いが、良いコミュニケーションが交わされていると思う。11
- ・なんとかコミュニケーションを取っている。10
- ・英語の問題が大きく、あまり良いコミュニケーションは成立していない。9
- ・シンプルな英語を用いて、より良いコミュニケーションが実現している。5
- ・スワヒリ語と英語を用いる事で、なんとかコミュニケーションを取っている。3
- ・最初は言葉の問題等とまどったが、今は良いコミュニケーションを取られている。2

問7：日本人教師について好きなところを挙げてください。

- ・教え方。44
- ・時間に正確である。31
- ・全ての生徒を理解させようと努力すること。28
- ・優しい。27
- ・授業に必ず来て教えてくれる。25
- ・生徒と親密につき合ってくれる。24
- ・とても礼儀正しい。15
- ・とても良く働く。14
- ・チャーミングである。12
- ・授業の時間外でも教えてくれる (extra class)。9
- ・例題をたくさん与えてくれる。8
- ・クラスにおける真剣さ。8
- ・知的であること。7
- ・人を差別しない。7
- ・シンプルな英語。6
- ・英語をしっかり学べば良くなる。6
- ・寛容である (体罰をしない)。5
- ・社交的である。5
- ・責任感が強い。4
- ・楽しんで教えている。4
- ・スポーツ好きである。4
- ・活発である。4
- ・いろいろ援助してくれる (電話を使わしてくれる、旅行に連れていってくれる etc)。3
- ・英語が上手である。3
- ・楽しい話をしてくれる。3
- ・授業の進み方がちょうど良い。3

- ・教材をたくさん持っている。2
- ・自分本位ではない。2
- ・生徒と恋愛をしない。2
- ・生徒を励ましてくれる。2
- ・個人的な相談にも乗ってくれる。2
- ・愛。1
- ・好奇心が強いこと。1
- ・ほかの先生とも仲良くやっている。1
- ・タバコ、酒をやらない。1
- ・身ぶり、手ぶりを使って教えてくれる。1

問8：日本人教師について嫌いなところを挙げてください。

- ・ない。55
- ・英語が下手なために説明不足である。43
- ・教師としての経験が不足しているため、十分な技量を持っていない。6
- ・授業のスピードが遅い。4
- ・すぐに怒る。4
- ・声が小さい。3
- ・授業中に日本語を使う。3
- ・質問される事を嫌がる。3
- ・スポーツに参加しない。2
- ・スワヒリ語を知らない。2
- ・熱帯地方に関する知識に乏しい。2
- ・授業中にムダな話をし過ぎる。2
- ・説明が不十分。2
- ・日本語で書かれた本を使っている。1
- ・与える例題が少な過ぎる。1
- ・正直過ぎる。1
- ・親密なつき合いができない。1
- ・自分本位である。1
- ・出題する問題にオリジナル性がない。1
- ・時間に厳しすぎる。1
- ・黒板に書く字が読みにくい。1
- ・もっとジョークをいってほしい。1

問9：学校をより改善するために、学校側に望むものは何ですか。

- ・もっと教師の数を増やしてほしい。29
- ・教材（テキスト、実験用具、薬品 etc）をそろえてほしい。20
- ・学校の施設の改善（電気、水 etc）16
- ・プロジェクト（野菜の栽培、動物の飼育 etc）を行ってほしい。13
- ・日本人教師をもっと多数受け入れてほしい。10
- ・教師が授業に必ず来る様に指導してほしい。8
- ・しっかりした学校運営。5
- ・教師の質の向上。5
- ・学校の資金不足の改善。4
- ・食事の改善（メニューの多様化、量の充実）。4
- ・何も期待できない。なぜならば、学校に金がないので。4

- ・英語教育のためにより多くの外国人教師が欲しい。2
- ・自由。2
- ・ゲームやスポーツをより多く導入してほしい。2
- ・英語の解る日本人教師が欲しい。1
- ・学校内での英語の使用を徹底してほしい。1
- ・授業の時間割を作り直してほしい。1
- ・教師の給料の値上げ。1

問10：学校内で何か問題がありますか。問題があったら、それを書いて下さい。

- ・教師不足と教師の質の低下。80
- ・本の不足。63
- ・食事が毎日同じであり(ウガリ豆)、質、量共に不適切である。39
- ・設備の不備、不足(イス、机、実験室、教室etc)。37
- ・水がない、あるいは不足している。33
- ・電気がないため寮で勉強できない。29
- ・教材が不足、あるいは古くなっている。19
- ・学校の資金不足。12
- ・スポーツ器具の不足。8
- ・保健室がない。5
- ・保健室の薬品がない。5
- ・トイレの管理が悪い。5
- ・教師とのコミュニケーション不足。5
- ・掃除用具の不足。4
- ・寮のベットの数が不足している。3
- ・学校に武器がない。3
- ・学費が高すぎて払えない。3
- ・学校の運営が悪い。2

問11：学校生活で最も嬉しいことは何ですか。

- ・スポーツ。40
- ・勉強できること。36
- ・エンターテイメント(ゲーム、ビデオ、歌etc)。27
- ・先生と生徒の間の友好関係。27
- ・良い先生に教えられること。17
- ・友達とのつき合い。14
- ・すばらしい日本人教師に教えてもらうこと。12
- ・順調な学校運営。11
- ・良い成績。10
- ・外国人教師の存在。7
- ・必要な教師の数が揃っていること。5
- ・本がたかくさんあること。5
- ・住みやすい環境。5
- ・新しくできた実験室。5
- ・学校の制服。4
- ・先生がきちんと授業に来る時。4
- ・プロジェクト(農園、動物飼育)4
- ・全ての生徒の理解を促してくれる授業。2

- ・男子校のため、恋愛なしに授業に専念できること。2
- ・共学であること。1
- ・宗教的な行事。1
- ・保健室ができたこと。1
- ・アフリカ人教師の上手な授業。1
- ・スワヒリ語を使うこと。1
- ・英語を話すこと。1

問12：学校生活で最も悲しいことは何ですか。

- ・食事の問題 (バランスの悪さ、量の少なさ、メニューが毎日同じ)。44
- ・教師不足。29
- ・電気がないこと。23
- ・水のないこと、不足していること。21
- ・教材 (本、実験用具 etc) 不足。20
- ・体罰。19
- ・先生が授業に毎回来ないこと。18
- ・設備 (イス、机、教室、実験室 etc)。不足。14
- ・マナーの悪い生徒 (規則を破る、教室で騒ぐ etc)。11
- ・悪い成績。9
- ・教師の質の低下。8
- ・生徒の質問に耳を傾けない教師。7
- ・厳しい学校の規則。5
- ・作業 (掃除 etc) の多さ。3
- ・病気の生徒への対応の悪さ。3
- ・悪い学校運営。3
- ・友好的でない先生。2
- ・学費が払えないこと。2
- ・寒い環境。1
- ・有効に利用されない図書館。1
- ・自由な時間が少ない。1

問13：将来はどのような職種に就きたいですか。

- ・医者。55
- ・教師。27
- ・経済学者。15
- ・会計士。11
- ・パイロット。10
- ・エンジニア。10
- ・薬剤師。8
- ・ビジネスマン。7
- ・弁護士、法律家。5
- ・農業関係の仕事。5
- ・神学者。3
- ・化学者。2
- ・測量技師。2
- ・医療助手。1
- ・看護婦。1
- ・秘書。1
- ・スチュワーデス。1
- ・銀行員。1
- ・アナウンサー。1
- ・船員。1
- ・地質学者。1
- ・科学者。1

問14：次の項目のうち最も興味のあるニュースは何ですか。(複数回答可)

- A 1) 世界の出来事。115
- A 2) アフリカの出来事。57
- A 3) 地域の出来事。15
- A 5) 家での出来事。73
- A 4) 学校での出来事。43

問15：次の項目のうち最も関心があるものは何ですか。(複数回答可)

- A 12) 友情。130
- A 6) 健康。104
- A 15) 車。68
- A 13) 成績。66
- A 5) 成功、失敗。38
- A 16) 自転車。38
- A 8) 娯楽。16
- A 1) 戦争。7

- | | | | |
|---------------|-----------------|---------------|-----------|
| A 3) 金、収入。80 | A 4) 昇進。60 | A 9) 余暇。25 | A 2) 犯罪。4 |
| A 10) 愛。79 | A 7) 食糧。48 | A 14) 電化製品。25 | |
| A 18) スポーツ。79 | A 17) ファッション。46 | A 11) 性。18 | |

5. ま と め

5-1 語学力について

今回のアンケート調査で回収された回答から判断すると、用いられた英語における表現力と語彙の豊富さはかなりのレベルである。特に、Aレベル(5、6年生)の生徒についてはかなり英語を自分のものにしていく様子が伺える。教室での印象からも、その表現力には加え聞き取り能力の熟練度には驚かされる。生活レベルでの英語の浸透が日本よりもはるかに進んでいるタンザニアにおいては、生徒もより英語に慣れ親しんでいる様である。ただし、今回は調査対象からはずされた0レベル(1~4年生)の低学年生については、隊員のさまざまな声から判断する限り英語について深刻な問題を抱えている。実際に隊員の中でも、スワヒリ語を用いることによりなんとか授業が続けられている状況が報告されている。生徒の英語力についての詳しい状況は別の調査の結果を待つより他にないが、少なくとも0レベル上級生とAレベルの生徒についてはかなりの英語力が認められた。

生徒から寄せられた隊員の語学力についての評価はかなり辛辣なものであった。事前から語学力について否定的な回答が予想された問2、問8では、やはり圧倒的な数の批判が隊員の語学力に寄せられた。多くの生徒が、隊員の英語力不足により授業中の説明が足りなくなる点、または授業が中断してしまうなどの具体的な弊害を記している。問2では約40%の生徒が、問8では約25%の生徒が隊員の語学力不足を指摘している。これらの数字はケニア、ザンビア、ガーナで行われた調査結果と比較しても、非常に高い値である。それ以上に驚かされたのは、もっと一般的な質問事項であったはずの問1においても、かなりの数の生徒が隊員の英語について批判していることである。これにいたって、隊員の語学について抱えている問題は深刻であるといわざるを得ない。

しかし、ここで問6の回答を見るととても意外な結果に驚かされる。語学力不足によるコミュニケーションの難しさを指摘する回答も見られるが、それをはるかに上回る約66%の生徒から良好なコミュニケーションの成立が解答された。これは英語における問題点を、教え方の工夫、スワヒリ語の利用、時間外の特別授業、効果的な板書、教材の利用などの理解させるための努力を隊員が心がけることにより補い、結果的にかなりの成果を上げている様子が伺える。同じことが、問4の回答において多くの生徒が学力上の向上を認めている点からも言える。

5-2 日本人教師について

タンザニアの生徒たちの日本人教師のとらえ方はかなり好意的である。問1、問2、問3、そして問7などをまとめてみると、優しく、礼儀正しく、良く働き、そして教えることにとっても熱心な教師像が浮かび上がる。時間を良く守る点、時間割に従って必ず授業を行う点など、日本の感覚からすると当たり前の事ながら高く評価されているところなど実にタンザニアらしく、同時にタンザニアの教育現場における基本的な問題点が良く現れている。教え方を中心とした授業のテクニックに関しても好意的な回答が多い。特に「すべての生徒をわからせようと熱心に教える」「差別しない」などの回答が目立つことから、隊員が生徒全員に注意を注ぎながら授業をしている様子が伺える。そしてその点が日本人教師の特長として高く評価されていることは今後の授業のあり方に指針を与えるものであり、注目に値する。問8において、多くの生徒が「嫌いな点はない」と答えたことから日本人教師の評価の高さが認められる。また批判的な意見のほとんどは、英語力の不足によるものであった。

生徒との親密なつき合い方についての回答も多い。これは隊員が教師と生徒という関係以前に、一対一の人間関係を大切にしながら生徒と接している点が評価された結果であろう。

物、特に教材などを与える側の人間としての日本人教師像も、いくつかの回答により表現されている。しかし、実際の授業や隊員の人柄について評価した回答数に比べると、物質的な援助についての回答数ははるかに少なく、日本人教師隊員が物を与えてくれる人というイメージに強くは結びついていないと考えられる。効果的な、バランスの取れた物の援助が実現されていると思われる。

5-3 学校の状況について

学校の状況について今回のアンケートより知り得た結果は、以前から各隊員より指摘されていた問題点とまったく一致した。タンザニアの学校においての問題点は大きく二つに分けられる。ひとつは学校の資金不足による設備、教材の不足である。そしてもうひとつは、教師の絶対数の不足とその質の低下である。実際に十分な資格を有さずに教えている教師も多い。これらの問題点については各隊員の報告書においてより詳しく書かれているのでここでは深く触れないが、このような状況の学校において生徒の多くが楽しみ、喜びをスポーツ、エンターテイメント、勉強できること、そして先生との親密な関係に見いだしていることを強調しておきたい。限られた条件のもとで、少しでも理想的な学校環境の実現のために、上記の項目を念頭に置くことは大いに意味のあることと思われる。

5-4 タンザニアの生徒について

問14で見られる結果は平成3年度にケニア、ザンビア、ガーナで行われた同様の質問事項の結果と良く一致している。特に「世界の出来事」はすべての国において一番解答数の多い項目であった。これはボランティアという形で身近に海外と交わる接点を持っていることも一因であろう。また、ラジオ、ビデオ、テレビ、映画等による海外の情報が全国的に浸透している様子が伺える。

問15の結果も他の三国での結果と良く似ている。健康、愛、友情、スポーツ、金と収入の項目は、どの国でも上位五項目を占めている。ただしケニア、ザンビア、ガーナにおいては健康が圧倒的な数の差でトップだったのに対し、タンザニアのそれは友情であった。これはタンザニア国内の医療機関の充実も一因であると思われるが、それ以上にタンザニア人特有の非常に親密な友情関係によるところが大きいと思われる。タンザニアにおいては親友はほとんど家族に近い感覚で語られるし、そうしたつき合い方がなされている。この事は、教師として派遣されている我が隊員にとっても、記憶にとどめておくべきポイントである。生徒一人一人との親密な人間関係が、結果的にスムーズでより深い理解をクラスにおいても実現させるものと思われる。問11において、「先生と生徒の間の友好関係」に回答が集まっているのもその現れであろう。

6. 今後の隊員活動

タンザニアの生徒は、あらゆる質問に対して比較的好意的な答を寄せる傾向がある。それを考慮すると、彼らがかかなり批判的だった日本人教師の英語力に関する問題はかなり深刻といわざるを得ない。まず第一に改善されるべき問題であろう。実際に二年間の任期中に個々の隊員の努力、または環境的な条件により語学力は上達する。生徒のアンケートでも「最初は言葉の問題等で戸惑ったが、今は良いコミュニケーションが取れている」といった意見が見られる。しかしこの場合、ある程度の上達が見られるまでに時間がかかってしまい、その間の授業においては教師、生徒共にかかなりの不自由を味わう事となる。このように考えてゆくと、日本での新隊員選考の際に、選考基準における語学力の比重を高める必要も出てくる。あるいは、より効果的な語学訓練を設定する方法もある。この場合は任国タンザニアに来た後に、何らかの形で集中的に英語を学べる期間を設ける事も考えられる。

授業のテクニックに関しては多くの生徒が高く評価している。日本での教師経験者がほとんどいない現在のタンザニアの隊員状況を考え合わせると、教師の能力、技術についての批判的な回答は驚くほど少ない。これは、日本における教師経験は、あれば良いが必要不可欠なものではない事を示している。回答数から見ると、それ以上に語学力についての対策が優先されるべきであろう。

前述したような、好意的な意見を書きやすいという生徒の傾向を考え合わせても、語学力以外に関する彼らの日本人教師に対する評価はかなり高い。それは日本的な真面目さ、優しさ、寛容さ、粘り強さ、そして気配りの多さによるところであろう。そして、そういった気使いの仕方を余り得意としないタンザニア人の中にあっては、ごく普通に働き、会話している隊員が、飛び抜けて真面目で優しく見え、評価されているようである。数人の生徒よりアンケートの答として、「日本人教師から、真面目に取り組む姿勢を学んだ」、あるいは「人の生き方を学んだ」という回答を得た。新しい刺激や選択肢を示し、多くの可能性を生徒に感じさせられる事もボランティア活動のもつ可能性のひとつであり、楽しさである。タンザニアで教えていても、ごく普通の日本的価値観と感覚をバランス良く持ち続ける事は、授業においても、現地人との関係においても非常に興味ある事であろう。

3 ガーナ ガーナ人教師・生徒へのアンケート調査

ガーナ「教師と生徒に対するアンケート調査」 96.2.22

Sample

We carried out the questionnaire on current educational problems at 16 senior secondary schools on September 1995. The schools that carried out are in five regions; Brong-Ahafo, central, Eastern, Upper east and Volta region. We collected the questionnaires from 181 teachers and 971 students. The questionnaire for students was made on form 2 students. Because we thought that form 3 students were very busy to study for S.S.C.E, and form 1 students had been SSS students only 9 months, so they have not understood their own schools very well. So we decided that the subjects of the questionnaire were form 2 students. Concerning the questionnaire for teachers, we carried out teachers as many as we could.

Table. 1 Distribution of Respondents

Region	Schools	Teachers	Students
Brong-Ahafo	3	25	189
Central	2	24	110
Eastern	3	31	166
Upper East	2	19	111
Volta	6	82	395
Total	16	181	971

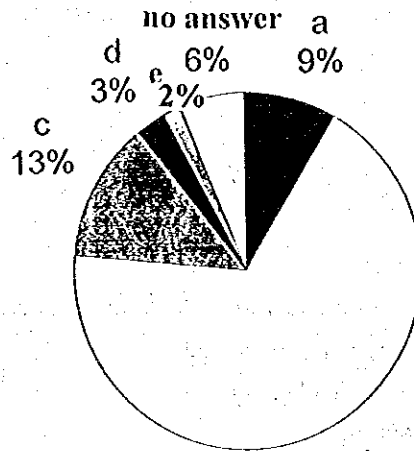
6/1 岡野哲也隊員より

アンケートを実施したのは、1995年9月で、対象は高校2年生と高校教師です。アンケート実施に際しては、ほとんどの生徒と教師は、アンケートについて見たこともなければ、やったこともなかったので、彼らがどこまでアンケートの質問について理解し、それに答えているかというところに少々疑問に思いますが、結果を見るとなるほどと思う内容になっていました。しかし、いくつかの質問に関しては、私たちの思っていること正反対の結果が出ていました。

For teacher

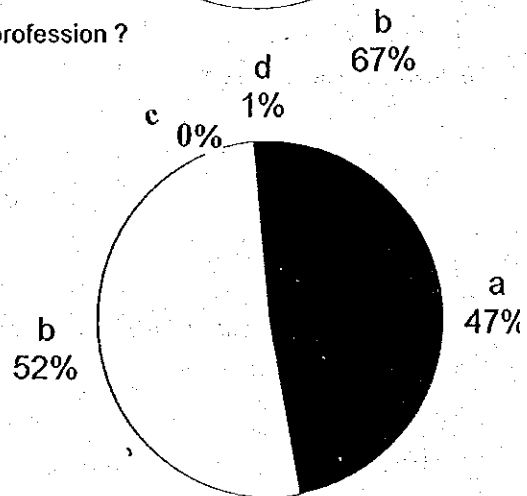
(1) . What do you think is most important for the development of the country ?

- a . infrastructure
- b . education
- c . industry
- d . health care
- e . money



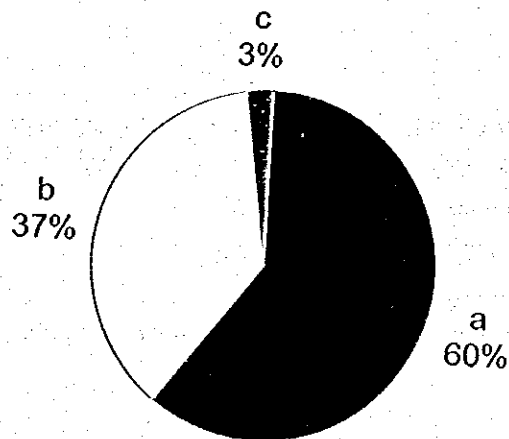
(2) . What do you think is the good point of teaching profession ?

- a . I can learn as well
- b . I can contribute to the society
- c . the work is not hard
- d . the salary is good



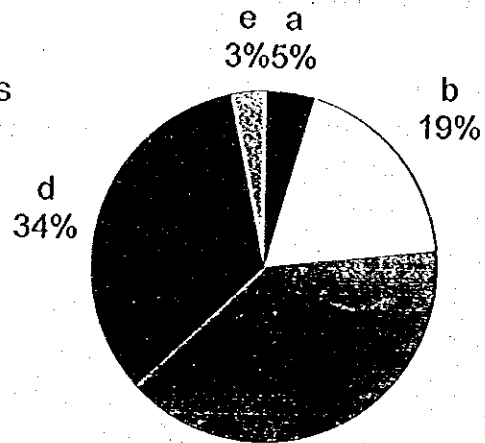
(3) . How is education important in your life ?

- a . very important
- b . important
- c . moderately important
- d . slightly important
- e . not important



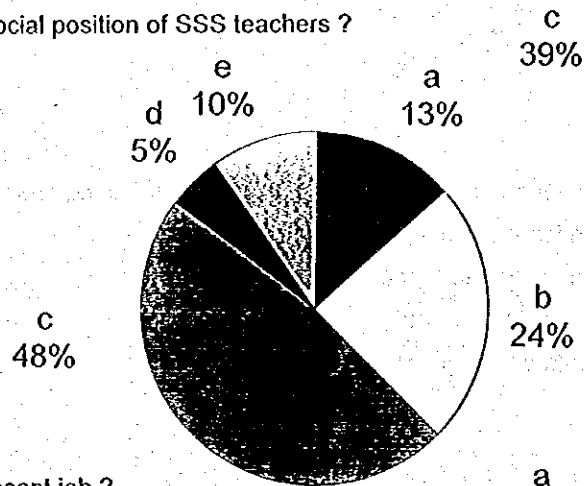
(4) . How do you think you can make schools better ?

- a . by providing more things with the students
- b . by the hard work of the teachers
- c . by improving basic educations in primary and JSS
- d . by improving the quality of teachers
- e . by increasing the number of teachers



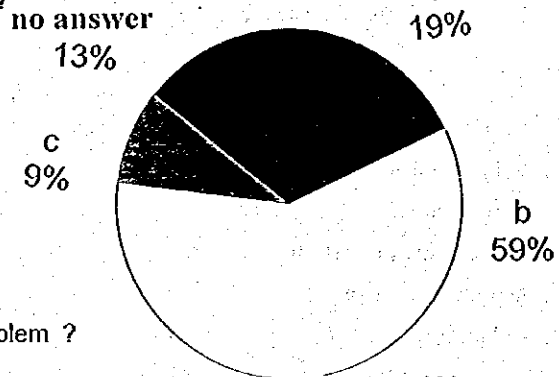
(5) . What do you think about the social position of SSS teachers ?

- a . very high, respected
- b . moderately high
- c . average
- d . slightly low
- e . low, looked down on



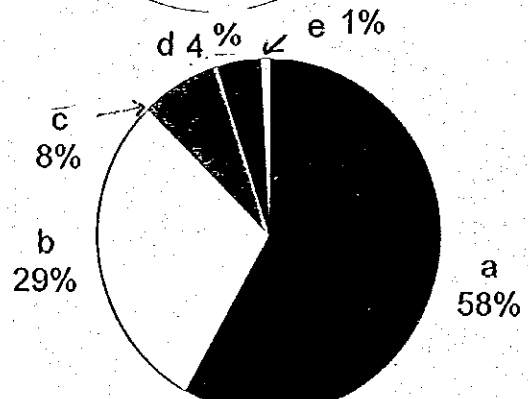
(6) . Are you satisfied with your present job ?

- a .Yes
- b.No
- c.Neither



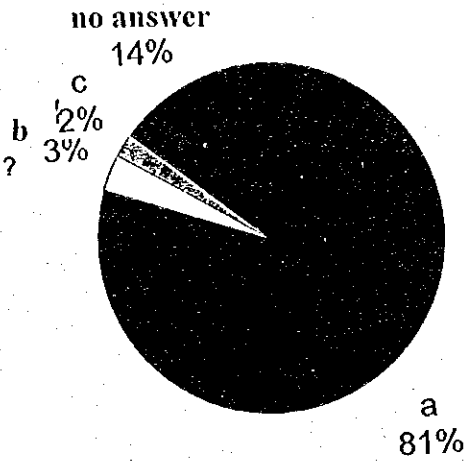
(6) - 1 . If not, what do you think is the problem ?

- a . The salary is too low
- b . Accommodation is not good
- c . Students are not eager to study
- d . The job is too hard
- e . I don't have a good relations with my colleagues



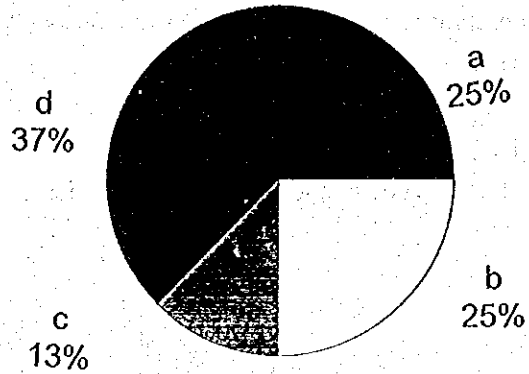
(7) . Do you attend your classes regularly ?

- a .Yes
- b.No
- c.Neither



(7) - 1 . If you do not, what is the reason ?

- a . Because I feel tired
- b . Because I have something else to do
- c . Because I get paid even if I don't work
- d . Because the students are not eager



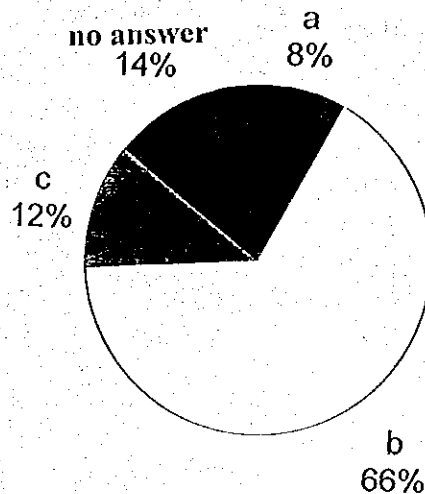
(8) . What do you think is the main problem in your school now ? Please write down.

1.Lack of accomodation	80
2.Students are not eager to study	36
3.Lack of text book	31
4.Lack of infrastructure	28
5.Lack of equipment	21
6.Lack of tercher's number	11

Language Problem(students cannot understand English)

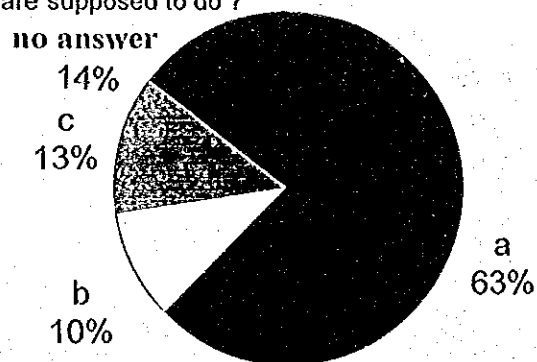
(9) . Do you think the students are doing what they are supposed to do ?

- a.Yes
- b.No
- c.Neither



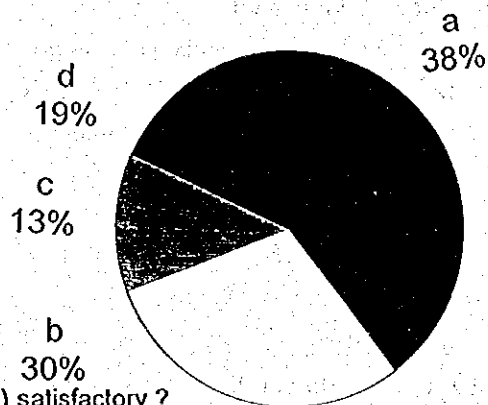
(10) Do you think the teachers are doing what they are supposed to do ?

- a .Yes
- b .No
- c .Neither



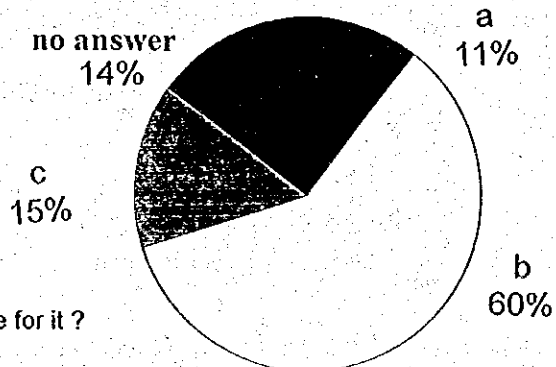
(11) What do you think is the problem with the teachers that hampers the accomplishment of good education in your school ?

- a . There is no problem
- b . They are not punctual to classes
- c . They are under qualified
- d . They don't have good relations with students



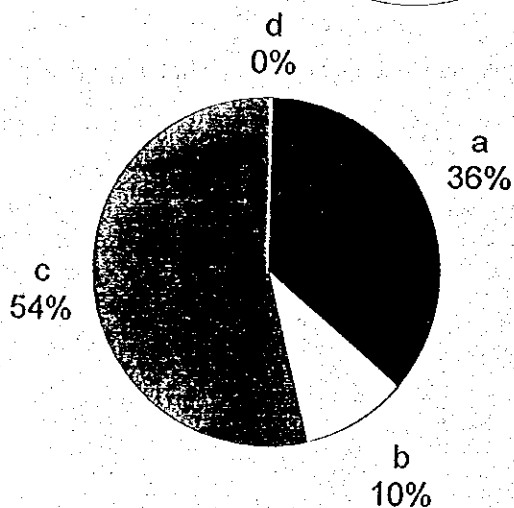
(12) . Is your students performance (SSCE results) satisfactory ?

- a .Yes
- b .No
- c .Neither



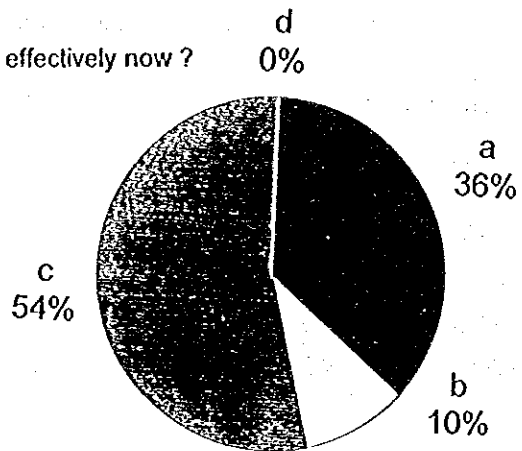
(12) – 1 . If not, who is mainly responsible for it ?

- a . The government
- b . The school administration
- c . The students
- d . The teachers



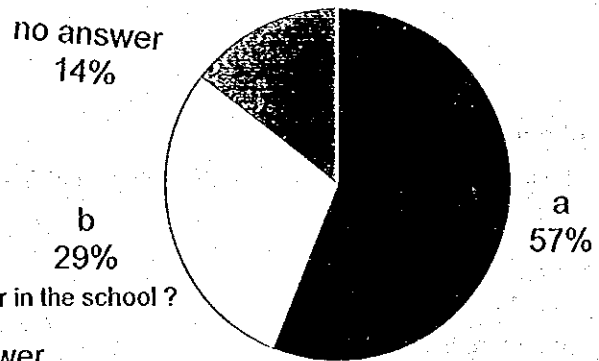
(13) What prevents the students from leaning effectively now ?

- a . They don't have enough money
- b . They lack academic foundation
- c . Their morale is low
- d . They don't have good teachers



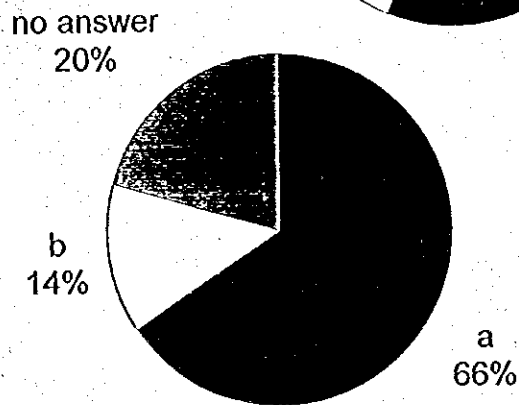
(14) Do you practice physical punishment?

- a .Yes
- b.No



(15) Is the punishment necessary to keep order in the school ?

- a .Yes
- b.No

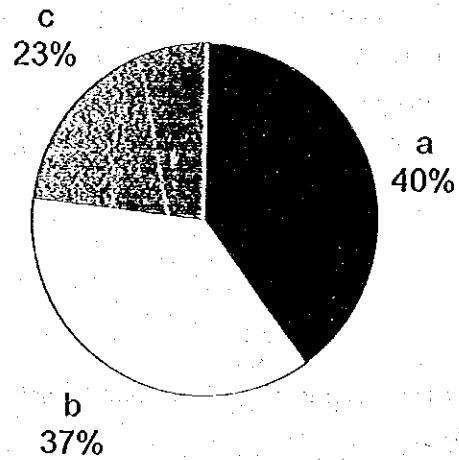


JOCV questionnaire on current educational problems

For students

(1). Your JSS is in

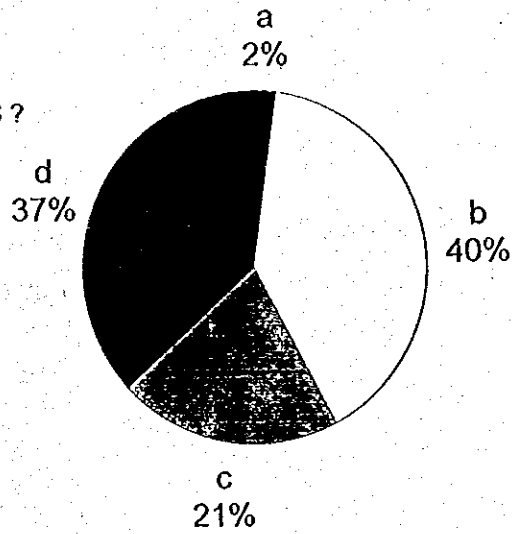
- a . a village(no electricity and no water) ,
- b . a town (either water or electricity available) ,
- c . a city(both available))



About JSS you attended

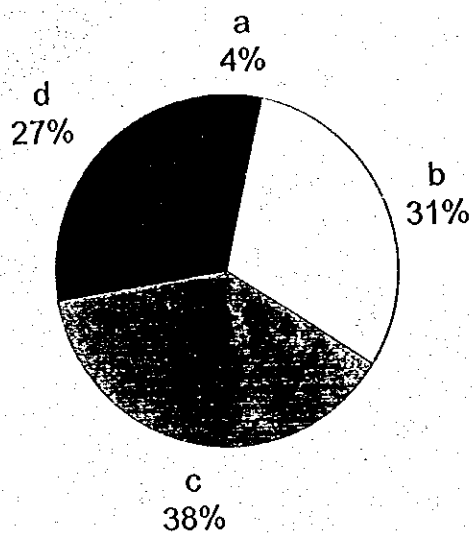
(2).How many classrooms were there in your JSS ?

- a . 1
- b . 2 or 3
- c . 4 or 5
- d . more than 5



(3).How many teachers are there in your JSS ?

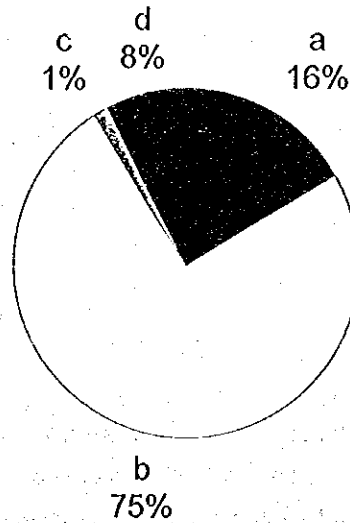
- a . less than 3 teachers
- b . 3 to 6 teachers
- c . 7 to 10 teachers
- d . more than 11 teachers



地域別の集計

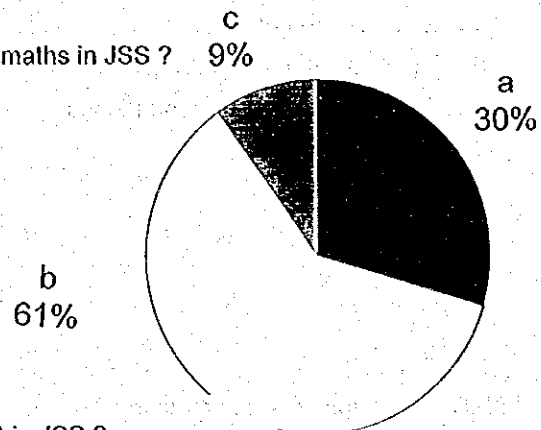
(4). In which language were you taught in your JSS ?

- a . English only
- b . Mainly English , sometimes Ghanaian language
- c . Ghanaian language only
- d . Mainly Ghanaian language, sometimes English



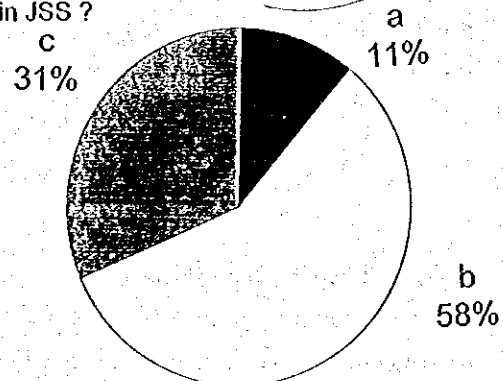
(5). Did you have your own textbooks of science and maths in JSS ?

- a . I had both.
- b . I had none
- c . I had one



(6). How often did you do any experiments (practicals) in JSS ?

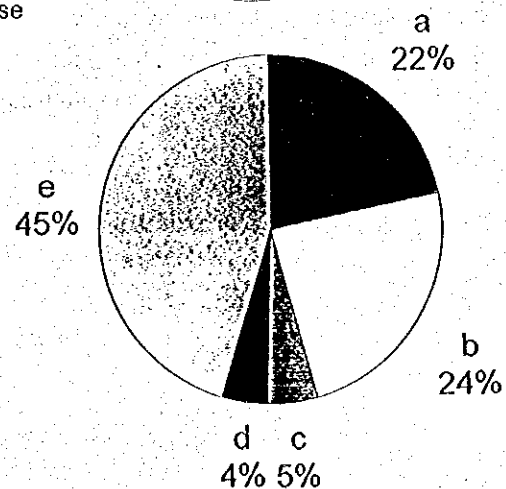
- a . often
- b . sometimes
- c . never



About your present school

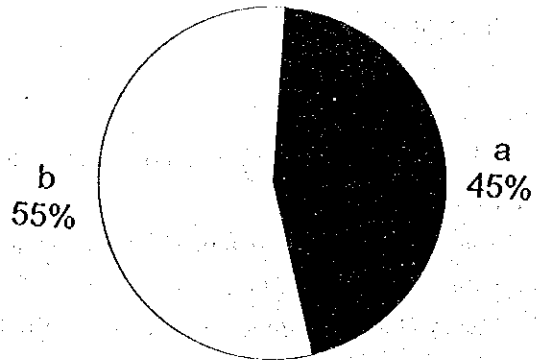
(7). Why did you choose your present school? because

- a . the school is the nearest to my home.
- b . the school has good reputation.
- c . I was told to go there by the JSS teacher.
- d . The school fee is cheap.
- e . The school has the course I wanted to learn.



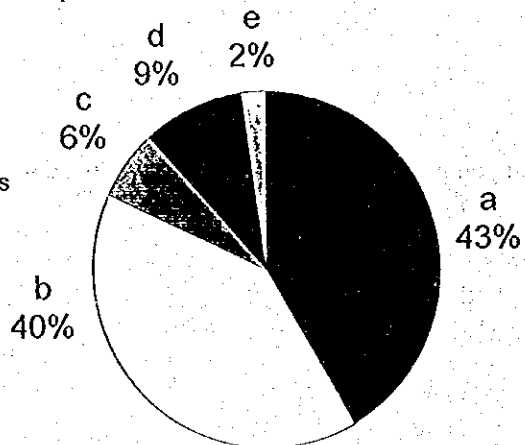
(8).Are you satisfied with your present school ?

- a . Yes
- b . No



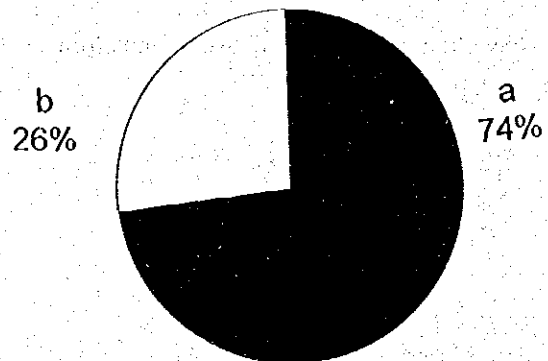
(8)-1.If not, what is the reason ?

- a . Facilities are not good or short
- b . Not enough number of teachers
- c . teachers are not good
- d . I don't like the town in which the school is
- e . There are not many good friends



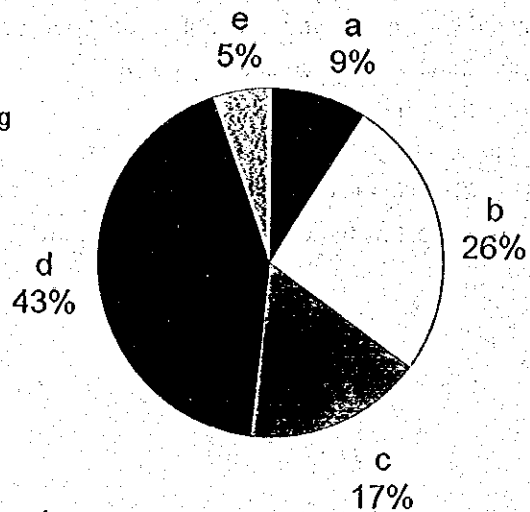
(9).Do you attend classes regularly ?

- a . Yes
- b . No



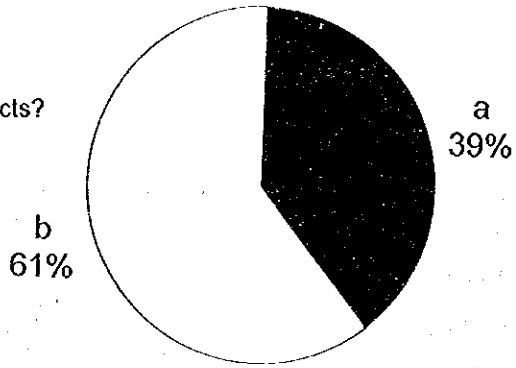
(9)-1.If not, what is the reason ?

- a . Because I feel tired
- b . Because I have to go to farm
- c . Because I have to help my family
- d . Because I can't pay my school fees
- e . Because I am not interested in studying



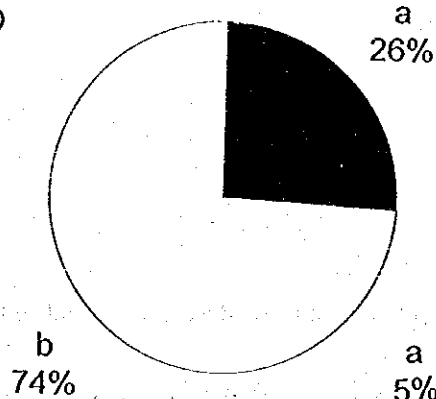
(10).Do you have your own textbooks of all subjects?

- a . Yes
- b . No



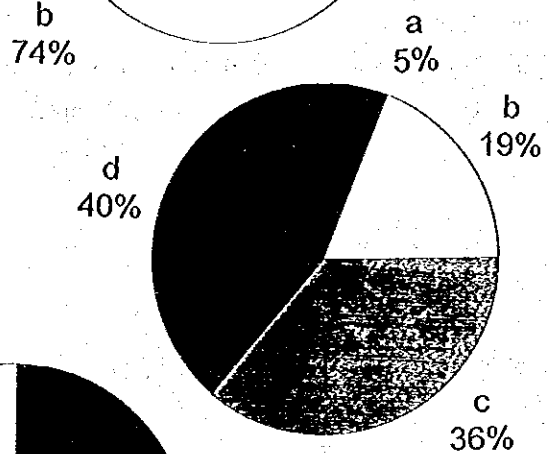
(10)-1.If not, what is the reason ? (choose up to 2)

- a . I don't pay the school fee
- b . there are not enough textbooks in my school



(11).How many hours do you study after school?

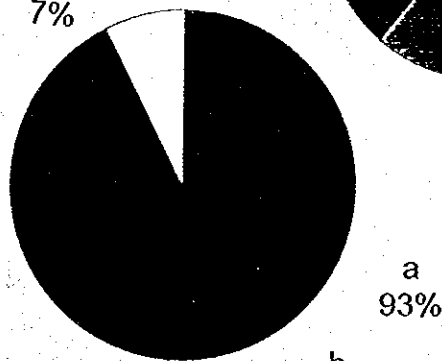
- a . less than 30 minutes
- b . 30 minutes to 1 hour
- c . 1 hour to 2 hours
- d . more than 2 hours



b
7%

(12).Do you go to school on time?

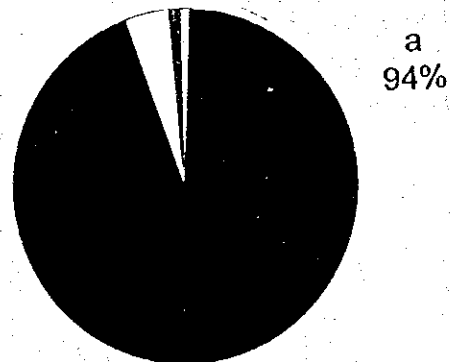
- a . Yes
- b . No



(13).How much is education important in your life ?

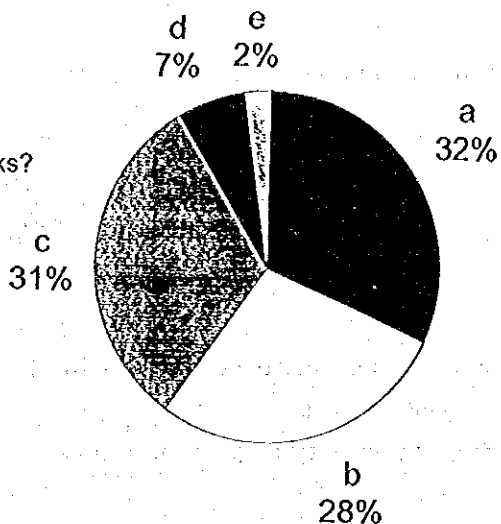
- a . very important
- b . important
- c . moderately important
- d . slightly important
- e . not important

b
4%



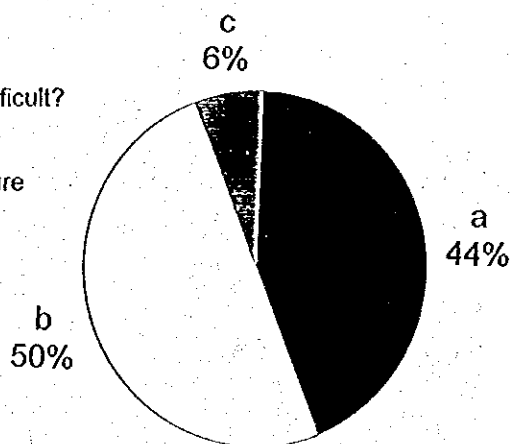
(14).What do you think the content of textbooks?

- a . too difficult
- b . difficult
- c . average
- d . easy
- e . too easy



(14)-1. If you think it is too difficult or difficult, what is difficult?

- a . English
- b . There are a few explanation of a topic by using figure
- c . The explanation of topics are too simple



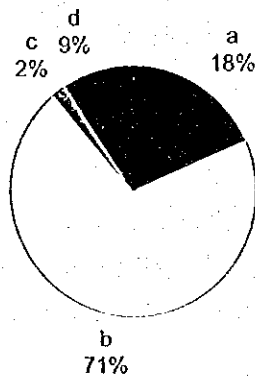
(15).In the future, what kind of occupation are you going to do?

1. Teacher	177	6. Constructor	30
2. Doctor	89	7. Accountant	27
3. Engineer	73	8. Lawyer	26
4. Nurse	61	9. Extension Officer	25
5. Soldier	33	10. Matron	24

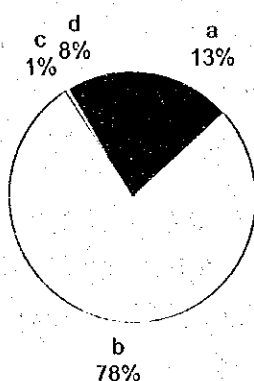
President	6
News castor	9
Jounerlist	10
Forming	10

(4). In which language were you taught in your JSS ?

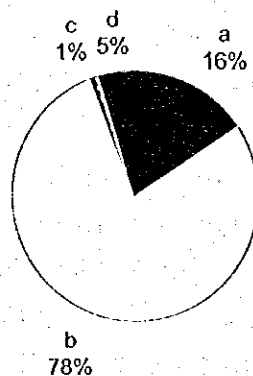
- a . English only
- b . Mainly English , sometimes Ghanaian language
- c . Ghanaian language only
- d . Mainly Ghanaian language, sometimes English



Village



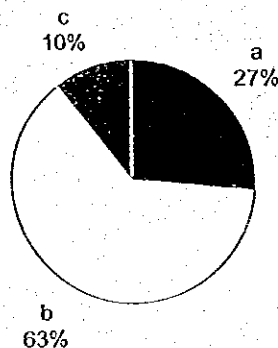
Town



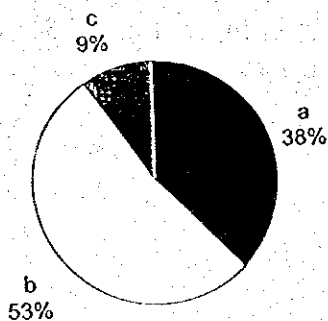
City

(5). Did you have your own textbooks of science and maths in JSS ?

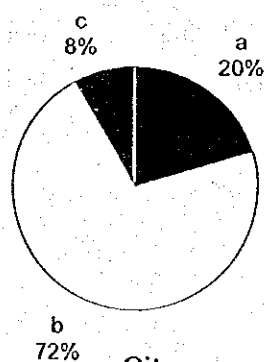
- a . I had both.
- b . I had none
- c . I had one



Village



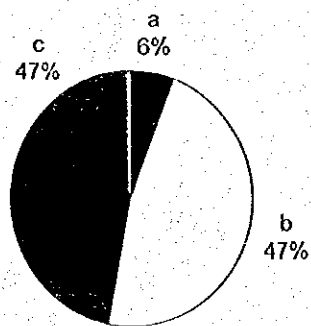
Town



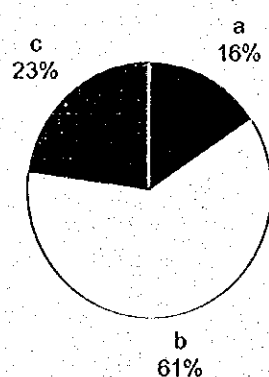
City

(6). How often did you do any experiments (practicals) in JSS ?

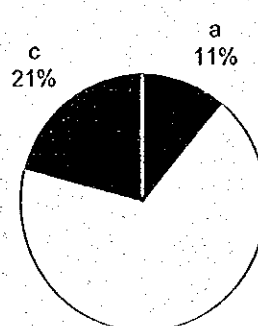
- a . often
- b . sometimes
- c . never



Village



Town



City

生徒についての結果

過半数の生徒が現在の高校に、教員不足または設備の不備などで不満を持っています。また、半数近くの生徒が授業料未納により学校に来れなかったり、教科書を学校から貸与されなかったりしています。また、教科書について60%の生徒が、教科書が英語で書かれている為に、または、教科書に挿し絵など視覚的に訴えるものがない為に難しいと感じています。これらの結果に関しては、私たちの普段思っていることと同じでした。しかし、設問9, 12については、私たちの思っていることと正反対の結果が得られました。多くの生徒が時間どおりに授業に学校に来ていると言っていますが、私たちには全くそうは思えません。最後に、生徒の将来の夢ですが、とても夢のあるものが多くて驚きました。医者になりたい生徒に、理由を聞いたところアフリカから病気をなくすと答えてくれました。日本の高校生はあまりにも現実的で夢がありませんが、ガーナのように現実を知らなすぎるのもどんなものなのでしょうか？

教師についての結果

教師の不満は、住宅難、低賃金です。また、学校の問題点としては、教員、生徒の宿舎不足、学校の設備の不備、不足であると考えているようである。学校を良くするにはどうすべきか(設問 4)という問いには、39%の教師が、プライマリー、JSSの質の向上を挙げており、34%の教師が教師の質を挙げています。これらの結果については、同感です。しかし、現在の学校の問題点の原因は、教師側にはないという結果(設問 9, 10, 12, 13)には、同感はできません。というのも、教師側の勤務態度などが生徒に影響すると考えるからです。最後に、体罰についてですが、66%の教師が必要と考えているのには驚きました。日本では、考えられないですね。